



佐賀大学理工学部・
工学系研究科広報

No. 31

Scien Tech

平成 29 年 8 月
佐賀大学大学院工学系研究科

目次

I 特集記事

数理科学専攻 この一年	数理科学専攻長 半田 賢司	1
物理科学専攻長・物理科学科主任の1年	物理科学専攻長 河野 宏明	2
循環物質化学専攻・機能物質化学科のこの一年	循環物質化学専攻長 高椋 利幸	3
機械システム工学専攻この一年	機械システム工学専攻長 宮良 明男	5
電気電子工学専攻長・学科主任の1年を振り返って	前電気電子工学専攻長 大石 敏之	5
都市工学科・都市工学専攻 この1年	都市工学専攻長 三島 伸雄	6
先端融合工学専攻この一年	先端融合工学専攻長 高橋 英嗣	7

II 退職教員より

在職29年間を振り返って	循環物質化学専攻 中島 謙一	9
理工学部で40年をすごして	機能物質化学科 野口 英行	11

III 教育・研究成果および社会活動の一覧

(1) 受賞	13
(2) 佐賀大学が世話役となつて行った学会・研究会一覧表	16
(3) 外国人訪問者一覧	17
(4) 社会的活動	18
(5) 留学・海外研修・国際学会参加一覧	27
(6) 博士論文テーマ一覧表	31
(7) 修士論文テーマ一覧表	33
(8) 工学系研究科研究成果一覧表	39
(a) 著書・学術論文	
(b) 資料・解説・論説・研究報告等	
(c) 特許	
(d) 講演（特別講演・一般講演）	
(e) その他（講習会等）	

I 特集記事

数理科学専攻 この一年

数理科学専攻長 半田賢司

これまでの在職期間の中で最も長く感じられたこの1年間を振り返ると、自ずと謝辞を記しておきたくなる。平成27年度の1年間、数理科学専攻長を務めるにあたって、当専攻の教職員をはじめ、工学系研究科の方々には大変お世話になった。大量のそして多様な管理業務を一人でこなせるはずもなく、その度にご協力を仰いだ記憶は今でも鮮明である。専攻長の最後の特権(?)として、この場を借りて御礼申し上げる。以下では、最も強く思い返される出来事をいくつか選んで述懐してみたい。

まずは改組関係である。特に、平成27年10月21日の臨時代議員会。この場では「就職対策や学力不足対応の観点から、改組後も単独専攻・学科を希望することの説明」をさせて頂いた。(「」内は議事録からの引用。) その後の別の機会に意見書として提出した内容も、一部披露しておきたい。‘紙幅’を肥やすだけだ、と受け止められてしまう気もするが、本理工学部これまでの状況ならびに将来に言及するものなので、ご容赦願いたい。

本理工学部はその名が示す通り、理学系学科と工学系学科から成り立っており、そのようなユニークな構成は独自の存在意義を与えるだけでなく、実質的なライバルと見なされる九州内の他の国立地方大学の理学部・工学部との差別化に寄与しています。このような意味において、工学系学科との共存が理学系学科それぞれの存在を独自かつ有利なものにし、逆もまた真であると言えます。そうした認識の下では、2つの理学系学科を1つの学科へと統合しようとする今回の改組案は、本理工学部の存在意義を希薄にして存在感を弱めるものです。また、ライバルとなる他機関との差別化も弱められることから、これまで以上に厳しい競争の中に図らずも突入することで、本理工学部の生き残りという最重要課題において危惧される状況がもたらされかねない、と懸念しています。

意見書提出の後、九州内のある国立地方大学工学部が「数理科学コース」を含む「理工学部」の設置を目指した再編計画を検討中であるとの記事を見つけた。単純に規模を反映するなら「工理学部」と呼ぶ方がずっとふさわしい。少なくともその点では、本理工学部で検討されている再編計画とかぶってくるという印象を持った。しかし、本理工学部の場合と歴史的経緯がかなり違うのは我々にとって明らかである。事実、50年前の創立時に原点としたのは数学科・物理学科・化学科・機械工学科・電気工学科であった。だが残念なことに、それを知り得ない受験生を含む圧倒的多数の人々にとって、選択の拠り所はその時点での姿形だけだろう。そうしたことを案じていた頃、気晴らしに読んでいた文庫本『人間の建設』の中で、何かに導かれたとしか思えない一節に出会った。高名な数学者・岡潔と批評家・小林秀雄との対談で、岡氏によれば「暗黒時代になると、物のほんとうのよさがわからなくなる。真善美を問題にしようとしてもできないから、すぐ実社会と結びつけて考える。」(中略)「そ

れが功利主義だと思えます。」実はこの直後の数行の方がより啓示的だが、ここに引用するには露骨すぎるので控えることにする。

次に人事について。平成26年度末の教授転出に端を発した公募人事を進めることができ、滞りなく‘一意解’が得られたのは喜ばしい結果と言える。1月に赴任した中村健太郎准教授のことである。幾重もの意味において環境は赴任前と全く異なると想像されるが、近年赴任して来た他の教員同様、本学でもさらなる進歩を遂げられると信じるに足る根拠がある。他方、これまで5年間にわたって利用してきた任期付きポストに関しては、平成27年度末にその期限を迎えてしまったことは大変残念であった。今更ながら同ポストにより果たされていた役割の大きさを切に感じている。

学生・院生の就職状況改善のための対策にもかなり力を注いだつもりである。いくつかの新たな試みも行った。残念ながらヒアリングの対象となってしまったが、その基準の合理性については理解していない。比較の相手として適切なのは、異なる土俵で競っている学内の他学科ではなく、例えば九州内の同規模大学の類似学科ではないだろうか。

最後に、年度末近くに起こった、今でも信じられない出来事に触れておきたい。予算返納という異例の事態についてである。異例ということだけで不適切ということにはならないが、それが可能であるということが適切さを保証するわけではない。これまでの規範ではそうだったと認識している。困惑と苦慮の中で可能な限りの対処を行った予算委員を含む当専攻構成員の多大な犠牲には、頭の下がる思いであった。今後、この件から将来的に研究活動の低下等、負の影響がもたらされることがなかったかどうかの検証なしに、各部局に対する業績評価の公正さを担保することはできないはずである。もっと大きな枠組みで言えば、国立大学の法人化そのものの正当性について、根本的な検証がなされるべき時期だろう。今回の件は不明の点ばかりだが、そのような事態は関係法成立時の国会附帯決議内で暗に予言されていた気がする。その後ないがしろにされた該当部分やこの一年間に重要性を思い知らされた部分は、ここに抜粋し提示しておく価値が十分あると考える。

- 学長、役員会、経営協議会、教育研究評議会等がそれぞれの役割・機能を十分に果たすとともに、全学的な検討事項については、各組織での議論を踏まえた合意形成に努めること。また、教授会の役割の重要性に十分配慮すること。
- 中期目標・中期計画に係る参考資料等については、極力、簡素化を図ること。また、評価に係る業務が教職員の過度の負担とならないよう、特段の措置を講ずること。
- 国立大学の評価に当たっては、基礎的な学問分野の継承発展や国立大学が地域の教育、文化、産業等の基盤を支えている役割にも十分配慮すること。
- 運営費交付金等の算定に当たっては、算定基準及び算定根拠を明確にした上で公表し、公正性・透明性を確保するとともに、各法人の規模等その特性を考慮した適切な算定方法となるよう工夫すること。また、法人化前の公費投入額を踏まえ、従来以上に各国立大学における教育研究が確実に実施されるに必要な所要額を確保するよう努めること。

物理科学専攻長・物理科学科主任の1年

物理科学専攻長 河野 宏 明

初めて専攻長・学科主任を拝命することになりましたので、初めて経験する業務ばかりで、とにか

く無我夢中に取り組んだ一年でした。残念ながら、何かを深く考える余裕といったものはありませんでしたので、とりあえず、時系列的に振り返ってみたいと思います。

4月。大学院オリエンテーション、学部のオリエンテーション、学生さんの学科表彰がありました。学期が始まったばかりなので、さまざまな雑用的用務も多かったです。

5月。8月予定のオープンキャンパスや高校教員との交流会へ向けた準備が始まりました。理工学部50周年記念誌の原稿依頼などもあったと記憶します。

6月。図書の継続手続きがけっこう長引きました。価格の上昇や消費税などの諸問題があったため慎重な判断が必要でした。

7月。人事の選考委員会などが多かったように記憶します。

8月。オープンキャンパス、後援会、高校教員との交流会、大学院入試など、専攻長・主任としては8月が一番忙しかったです。

9月。研究倫理教育などの様々なオンライン講習の全員受験達成がかなりたいへんでした。

10月。後学期開始とそれに伴う諸雑用などが多かったです。

11月。改組問題などが忙しくなりました。

12月。卒業・修了に関する諸事務が始まりました。

1月。センター入試などがありました。

2月。後期定期試験や卒業研究の発表、修士論文発表会、博士論文公聴会などがありました。

3月。卒業式・祝賀会などがありました。

慣れない仕事が多く、とにかく、ドタバタ過ぎてしまった感がいたします。いろいろな方にご助力いただき、なんとか責務をこなす事ができました。この場をかりて感謝の意を表させていただきます。存じます。(なお、上記記事には、書洩らし、記憶違い、個人の偏った感想などもあるかと思いますが、ご容赦ください。)

循環物質化学専攻・機能物質化学科のこの一年

循環物質化学専攻長 高 椋 利 幸

専攻長・学科主任を仰せつかったとき、まず、この1年は循環物質化学専攻と機能物質化学科にとって将来の鍵となる重要な年度になることを自覚した。それは、専攻から中島謙一教授と宮島 徹教授の2名、学科としては先端融合工学専攻化学系の野口英行教授を加えて、一度に3名の教員が定年によりご退職される年度だったからである。専攻や学科の将来に対して確固たる指針をもって人事にあたらなければならないことを肝に銘じた。これには、平成30年度に予定されている改組も重要なファクターであることは当然であった。しかし、残念ながら改組に関する情報はほとんど入ってこず、手探りの状態で人事の方針を決定していったと言える。現在、退職教員ポストの後任人事に対する大学の方針から、退職から1年を経ないと教員を補充できない状況である。しかし、学長への上申が承諾され、幸い退職教授ポストのうち教授1名の人事を先行して行って良いことになった。それまで一番手薄であったバイオ系教員の強化を指針として人事を行うこととした。他の2つの教授ポストについては1年間補充できず、教員全員で教育、専攻運営を何とか乗り切ろうと考えていた。その矢先、滝澤 登教授が宮崎新学長体制での教育担当理事に就任されるとの情報もたらされ、同教授の後任人

事も行うことになった。さらに、大学が文部科学省に申請していた国立大学改革強化推進補助金「特定支援型」が採択され、特任講師の人選も行うことになった。専攻・学科運営で他にも多くのことを実現しなければと考えていた私の計画は大きな変更を余儀なくされた。しかし、これら予定外を含め3つのポストの人事を行うことでバイオ系研究を1つの柱にすることができた。これから実現に向けて大きく動き出す改組に対しても本専攻・学科で対応できる体制ができたと思う。

さて、学科のインカムの課題として学部入学試験の受験者数確保がある。残念ながら、本学科の入試倍率は、この3年徐々に減り、正常な入試の目安である2.0倍近くまで減少していた。これを巻き返そうと、学科教員とともに2つの対策を講じた。その1つは、高校訪問である。まずは、近年コンスタントに本学科へ入学者を輩出していただいている高校を訪問し、進路指導や化学担当教諭に本学科の教育システム、研究の魅力、前期日程入試での英語の導入について説明することを行った。平均して教授が2校、准教授が1校を担当し、全25校を訪問した。ただし、募集要項の発行を待ったため11月という受験スケジュールには遅い時期であった。この反省から次年度は推薦入試の被推薦者が決定されるという6月末までに訪問を実施することになった。また、4月末から5月にかけて編入学試験受験者のために近隣の高専3校を訪問した。これは、早速、功を奏し、例年の約2倍、6名の高専生が、平成28年4月に3年次編入生として入学した。

2つ目の対策は専攻・学科の広報の場であるWebページを改訂し、受験生に本学科の魅力を発信することであった。専門業者に依頼しWebを見やすく、美しく改訂することには成功したが、内容を充実させるまでは至らず、申し訳なく思っている。高校生に向けた研究内容紹介など、引き続き改訂作業を行うことになっている。このような対策を講じたものの、2月に実施された前期日程入試では倍率1.9となり、ついに2.0倍を割ってしまった。しかし、最終的には追加合格者確保の電話連絡をすることなく、平成28年4月に93名の新入生を迎えることができた。大学院博士前期課程入学試験については、定員以上の入学者数が確保されたが、これまでの定員130%から110%未満まで入学者数上限が減じられたことは、今後の学生の進路指導にも大きな影響を与えることは言うまでもない。

一方、アウトカムとしては、本年度は学部卒業生86名、博士前期課程修了生26名を輩出した。しかし、就職率向上に対しては、確固たる対策を打つことができなかった。佛淵前学長が設定した就職率B=92%のボーダーには遠く、未達学科に対する学長ヒアリングが実施されて以来、連続してヒアリング対象学科となっていることは遺憾である。今後、教員志望や公務員志望の学生を中心に何らかの対策を講じる必要がある。

最後に、専攻・学科の研究成果は、地方大学としては高いものであると自負している。これは、教育に加えてさまざまな用務がある中での教員の努力の賜であると言える。しかし、運営交付金の大幅な減額は、今後の各教員の研究活動ならびに研究を通じた教育に多大な負の影響を与える。教員個々の外部資金獲得も重要であるが、数名の教員でグループを組み、研究テーマを立ち上げて大型資金の獲得に努力することが必要であろう。

いくつかの課題は残したものの、専攻長・学科主任をスムーズに務められたことは、循環物質化学専攻と先端融合工学専攻化学系の教員を含めた機能物質学科の教員や事務職員の方々のご理解とご協力があってのことであり、この場を借りて深く感謝申し上げる。

機械システム工学専攻この一年

機械システム工学専攻長 宮 良 明 男

2004年度、2010年度、そして2015年度、この一年は3回目の専攻長を務めた。1回目は法人化後の最初の年で、慣れない学科運営に苦勞しながら、学科長・専攻主任に加えて、偶然重なった博士後期課程の大講座主任と全学教育機構の部門長を務め、何をどうやったかの記憶は薄れているが、やたらと会議に振り回され、研究や学会出張もほとんどできなかったことを記憶している。研究業績のリストを見ると、やはりその時期だけ論文や学会発表が極端に少ない。2回目は大学院重点化後の最初の年であり、多少バタバタしたが、少し慣れていたこともあり、専攻内の会議の回数を減らし、研究科運営に関わる仕事も効率よく処理することを心掛け、前回よりは研究室に所属する学生の指導の時間や研究の時間を少し多く作ることができたように思う。それでも専攻長としての業務は多く、当然のことではあるが、かなりの時間をそれ割かれたことは否めない。

3回目となった2015年度は、改組を2年後に控えていたため、多くの時間を改組の検討に割かれるのではないかと考えていたが、専攻長には改組の話はほとんど降りてこなかった。これは幸いでもあったが、どのような改組が行われるのかがわからない状況下で不安を感じることもあった。2016年度の専攻長は改組に関わる時間が多いと思われるが、いい改組ができるように貢献していただくことを期待している。一方、専攻の運営に関しては、だいぶ慣れてきたこともあるが、各教員が担当している委員の仕事をしっかり務め、専攻・学科の運営に協力していただいたことで、出張などで迷惑をかけながらも何とか専攻長の務めを果たすことができた。とは言え、専攻内の内規の整備や業務の効率化など、改善すべき点にはなかなか手が付けられず、そのままになってしまったことは残念であり、申し訳なくも感じている。

台湾の国立勤益科技大学と学部間交流協定を締結できたことは、専攻・学科に対する貢献の一つであったと思う。勤益科技大学は規模の大きな大学ではないが、ものづくりと国際化を通じた学生教育の改善に特に力を入れている。夏には毎年アジア各国の学生を対象としたサマーキャンプも開催されており、私が視察した際も各国の学生が活発に活動していた。佐賀大学から参加する学生にはいい勉強になり、加えてPPGAの学生には短期インターン研修の単位とすることも考えられる。また、短期留学生の受け入れと送り出しなどにより、専攻における教育の国際化の機会を増やすことができる。

2016年度には改組の検討に加え、JABEEの審査も実施される。新専攻長の業務が多忙化することは否めないが、さらに専攻・学科が発展することを期待している。

電気電子工学専攻長・学科主任の1年を振り返って

前電気電子工学専攻長 大 石 敏 之

2年半ほど前、民間企業から佐賀大学へ赴任し、最初の1年間は大学の環境に慣れるのに精一杯であった（未だに慣れ切った感はない）。やっと、1年を乗り切ったと思っていた矢先の出来事が「専攻長・学科主任の職」である。今振り返って、なんとかなったのは、私の力ではなく、電気電子工学科を始めとする教職員の力であると実感している（支えられたと感じる以上のものを感じています）。

真っ先に、皆様への感謝で一杯であることを述べておきたい。

さて、本来は、学部や学科の歴史の中で1年を振り返るのが筋であると思うが、私には過去の情報が薄い。4月にいきなり、新入生オリエンテーションと合宿があったかと思うと、6月には早くも入試、高等学校との進学懇談会、近隣高校への学科紹介、7月に大村高校が来訪、8月にはオープンキャンパスと保護者との懇親会、さらには大学院の入試、9月に工場見学、2月に六角小学校来訪、3月に卒業式、修了式と未知の世界が広がっていた。特に理工学部50周年の前の年であり、50周年誌も書かせていただいた（こんな若輩が書いて良いものかと今でも疑問に感じる所はあるが）。

電気電子工学科は学部学生が398名、大学院前期課程で88名、後期課程で8名、合計494名が在籍している。電気電子工学の専門基礎分野を重視した専門教育を行い、社会で活躍できる技術者としての能力を備えた人材を育成している。学部、大学院とも就職希望者の就職率はほぼ毎年100%である（ただし、学部生は約半分が大学院博士前期課程に進学）。さらに4年次、大学院では学会発表の他、学会表彰、コンテスト入賞も多く、学内だけでなく、学外でも活躍している。学位授与式では学外表彰の授与も行っているが、例年、主なものだけを手渡ししている。授与式で手渡しできなかった学生には申し訳ない気もするくらいである。私としては、この1年で、多くの学生を教育し、活躍させるための努力の一端を感じさせていただいた。

今年は専攻長・学科主任の任を解かれて、ほっとしているが、昨年の経験を活かし、今度は支える立場で活躍できればと考えているしだいである。

都市工学科・都市工学専攻 この1年

都市工学専攻長 三 島 伸 雄

都市工学科は、今年度、コース制を導入して10年目を迎えました。平成18年に「都市環境基盤コース」と「建築・都市デザインコース」を導入しましたが、緩やかなコース制と称し、ほぼ全選択制ですが、コース科目と共通科目から一定程度の科目は取らせるようにしたものです。その中でも、佐賀に建築を学ぶところができたと強くアピールできるようになったことは感慨深いものがあります。それからちょうど10年目の学科主任・専攻長を務めることになったことにも感慨深いものがあります。

コース制を導入して、大きな変化がいくつかあります。一つは、入試の倍率が上がったこと、学生の就職先の幅が広がったこと、資格試験合格者の増加です。入試の倍率は、これまで学部の中で最下位に甘んじていたのですが、最下位ではなくなりました。この3月に行われた後期入試では、合格最低点が学部で一番でした。コース導入の狙いがここ数年で達成できています。一方で、就職も、これまで少なかった住宅メーカーや設計事務所、ゼネコンの建築部門への就職がもちろん増えましたし、近年は、都市工学を学んだということから金融や不動産への就職者も出てきています。建築士はもちろん、技術士2次試験の合格者も確実に増えつつあります。建築士は、二級建築士に合格した者が10名出ました。現役大学院生の合格者も出ました。指定科目を揃えたことで二級から受験しようという学生が増え、その結果が確実に反映しているようです。分析結果によると、二級建築士から受験した人の方が一級建築士にも早く合格しています。これから受験という人たちにも参考にしてもらいたいと思います。また、技術士についても、土木の先生方の努力により、学部・大学院での2次試験合格者が大幅に増加しています。JABEEは取っていませんが、2次試験で合格していることは就職先で

ある企業からも高い評価を受けています。

このように、都市工学科のコース制導入は大きな成果を上げつつあります。一方で、全国的な少子高齢化が進んでおり、それを見据えた改革が求められています。その改革に向けて、理工学部も動き出しました。都市工学科・都市工学専攻の出身者のみなさんが、差し迫っている都市問題、例えば各種インフラの老朽化、中心市街地の衰退、リノベーション需要、防災・減災等に対して、地域ニーズに応え、グローバル社会にも対応して評価を高めることを期待しています。

先端融合工学専攻この一年

先端融合工学専攻長 高橋 英嗣

先端融合工学専攻設置から5年目となりました。ご存知のように本専攻は基礎となる学科をもたない独立した専攻です。そのため運営は簡単ではありませんが、今年度においても、これまでと同様に関連学科である機械システム工学科、電気電子工学科、機能物質化学科と密接に連携することで、大過なく1年を終えることができました。これら関連学科には、特に感謝申し上げます。一方で、組織構成と実際の運営との間の乖離をどのように丸く収め、本専攻としての独自性を発揮するかという点については依然として課題が残ったと思います。

ここで教員の異動についてまとめておきます。まず、H27年5月に准教授として山岡禎久先生を京都府立医科大学よりお迎えすることができました。この人事は工学系研究科において医工学分野の充実を目指すという、将来の組織再編を見据えた石橋研究科長のご高配で実現したもので、本専攻にとっては、創設以来初めて関連学科とは独立した人事という大きな意味を持つものでした。山岡先生の専門は、生体の光音響イメージングであり、この分野では国内トップを走っており、事実、各種の大型プロジェクトにも参画しています。さらには、専攻の医工学系教員の研究と親和性が高いことから、シナジー効果を期待できます。H28年2月には、文部科学省の「優れた若手研究者の採用拡大支援」制度を利用して藤澤知積先生が循環物質化学専攻助教からテニュアトラック教員（特任講師）として本専攻に採用されました。光受容タンパク質や生物発光に関わるタンパク質の分子メカニズムを分子分光学を駆使し解析しています。一方で、赤津隆先生が本学芸術地域デザイン学部へ異動されました。1年間という短い間でしたが、本専攻の運営にご協力いただきました。最後に、野口英行先生が定年退職されました。41年という長い間ご苦労様でした。

本年度の専攻の目標として、大学院入試の改善を設定しました。具体的には、過去の志願状況の分析と将来予測、本学以外からの受験者勧誘を目指した専攻ホームページの充実と近隣の高専（専攻科）へ出向いての宣伝活動等です。その結果、高専および他県私立大学からの受験希望者を発掘することができました。一方、出口については、関連学科のご協力のおかげで就職率100%を達成することができましたが、博士後期課程進学が0であったことは残念です。

本専攻は異なる学問的バックグラウンドを有する教員から構成されていますが、教員間の学問領域を越えた研究上の協力もいくつか実現され始めました。また、学生教育においては、領域融合の目的で昨年度より始まった「プロジェクトスタディ」と今年度より開始した先端融合工学専攻所属の全教員が持ち回りで自らの専門領域の講義を行う「先端融合工学特別講義I」も順調に進んでおり、学生からも好評をもって受け入れられています。今後、教員間の研究協力をさらに活発化させるとともに、医

学部との共同研究を推進する必要があると思います。これらの契機となり得る，専攻挙げての大型プロジェクト応募を真剣に考える時期と感じます。

H30に予定されている学部・研究科の改組では，本専攻に大きな変化が訪れることが予想されます。改組に際してアイデンティティを強く印象付け，改組を絶好の契機としさらなる学問領域融合が実現できるよう，専攻を挙げて周到な準備が必要と思います。

Ⅱ 退職教員より

在職29年間で振り返って



佐賀大学には1987年1月1日に赴任し、2016年3月31日まで29年3ヶ月の間、在職しました。この間に印象に残ったことを四つに分けて、思いつくままに記してみたいと思います。

循環物質化学専攻 中島謙一

当たってのポイントは、あまり予算をかけないで最先端の研究をしており、かつ、それまでの私の研究経験をある程度活かせる所ということでした。

いろいろ捜しているうちに、米国コロンビア大学のNicholas Turro教授の所が目にとまりましたので、早速手紙を出しました。そうすると、「あなたのような研究分野の人を是非ほしいと思っている。しかし、今は研究資金の使い道をすべて決めてしまっているので、滞在費は出せない。もし、日本の留学資金を使って来るのであれば、喜んで受け入れる。」というものでした。日本の留学資金の順番が廻ってくるのはいつのことか分からないので（当時の教養部では順番制）、滞在費は先方に出してほしいと思っていました。さらに、先方の返事を深読みすれば、「あなた程度の研究業績のある研究者はたくさん応募してくるので、わざわざ金を出してまで受け入れるつもりはない。しかし、日本の留学資金を使って来るのであれば、たいした研究成果が挙がらなくても損はしないので、喜んで受け入れる。」とも受けとれたので、別の研究室を捜すことにしました。その次に目に付いたのはカナダのトロント大学のMitchell A. Winnik教授でした。彼は蛍光分光法によって高分子ミセルやラテックスの特性解析を行っていた人で、当時49歳の若さで既に（その分野では）世界的に名前が知られていました。手紙を出したら、「受け入れる、滞在費も出す。」ということでしたので、そこに決めました。

1. 教養部時代

教養部には1987年から9年9ヶ月間在職しました。教養部には文系、理系、体育系など様々な分野の教員が混じっていました。そのせいか、教授会での議論が非常に活発で、毎回、喧々諤々という感じでした。特に際立っていたのは、文部科学省（当時は文部省）に対する対応が理工学部と大きく違っていたことです。理工学部では文部科学省の意向を尊重する雰囲気が強く、議題に対して何か反対意見が出たときに「文部科学省がそう言っている」と言えば、「それなら仕方がない」という空気になって議論が収束することが多いですが、教養部の場合はそれとは反対で、「文部科学省がそんなことを言うのはけしからん」ということになって議論がますます紛糾していました。教員の中には、文部科学省の言うことには徹底的に抵抗するという人もいて、そういう人は「〇〇原理主義者」などと言われてからかわれていました。何でもかんでも反対するというのは考えものですが、大学が社会の木鐸の役割を担っていることを考えれば、時の政府に対してあまりに従順であるのもどうかと思います。

2. カナダ留学

教養部に在職中の1990年6月から1年間、カナダのトロント大学へ留学しました。私にはこの留学に秘めた思いがありました。それは留学によって研究分野を変えるための基盤作りをすることでした。私のそれまでの研究分野は分子分光で、学生の時とほぼ同じでした。しかし、この分野で最先端の研究をしようとするれば高価な機器が必要で、九州大学程度の大きな予算が必要でした。そのため、いつまでも分子分光にしがみ付いていれば、大きな大学の後塵を拝するだけでした。留学先を捜すに

ここで、これから留学を考えておられる若い方のご参考までに、留学の方法について記しておきたいと思います。外国に留学する方法としては、大別して二つがあります。学術振興会などの日本の留学制度を使って行く方法と外国の受け入れ教授から滞在費を負担してもらう方法です。もっと端的な言い方をすれば、日本の金で行くか外国（先方）の金で行くかの二つです。前者の場合は、受け入れ教授にとって経済的な負担を伴わずに留学生が研究という労働を提供してくれるので、どこの研究室でも歓迎してくれます。多分、ノーベル賞級の有名な教授でも喜んで受け入れてくれるでしょう。一方、後者の場合には、有名な教授のところほど応募者が多く、受け入

れが厳しくなります。そのため、受け入れてもらうためには相応の研究業績と推薦書が必要になります。しかも、出してくれる滞在費の額が少なくなる傾向があります。この点は労働力の値段（つまり、賃金）に市場原理が働くのと同じです。さらに、滞在費は受け入れ教授が自分のグラントの中から出すわけですから、先方が期待している程度の研究成果を挙げる必要があります。このように、滞在費を先方に出してもらう場合は、ハードルとプレッシャーがありますが、日本の留学制度で採択されるのはかなり難しいので、ぜひ留学したいと思われたら、どんどん先方に打診されることをお勧めします。いくつか打診したら、必ず受け入れ先が見つかると思います。

私が滞在した Winnik 教授の研究室は、教授をトップにして研究員および大学院生から成っており、総勢20名でした。出身国が実に多様で、教授がアメリカ、秘書がメキシコ、以下、中国、フランスなど11カ国から集まっています。これらのメンバーの数人とは今も交友が続いていますので、友人の範囲が一挙に国際的になりました。私は蛍光分光法によるラテックス表面のモルフォロジーの研究を行いました。新しい分野のことを学びたいという気持ちと教授が出してくれる滞在費に見合うだけの研究成果を挙げなければいけないという気持ちがありましたので、土曜・日曜・祝日返上で研究を行いました。夜も毎日10時近くまで研究室に残っていました。幸い、カナダはアメリカと違って治安の良い国でしたので、夜遅く帰っても危険な目にあうことはありませんでした。その5年前にアメリカのニュージャージー州立大学に2ヶ月間滞在したことがありますが、その時には、ニューヨークの地下鉄に乗ってはいけない、夜の公園に入ってはいけないなどと言われていましたので、その折とはかなり違いました。休日返上で頑張ったおかげで、それなりの研究成果を挙げることができ、Winnik 教授も満足してくれました。その後、北米・東海岸で学会がある時はたいいてトロントに足を延ばして研究情報の交換を行ったり、講演を行ったりしましたので、トロント訪問は計5回に上りました。

最後に、トロント大学を紹介しておきたいと思います。トロント大学はカナダで最も歴史の古い総合大学で、多くの著名な学者、政治家、文化人を輩出しています。これまでに、8名のノーベル賞受賞者と4名の連邦政府首相を出しています。例えば、糖尿病治療薬のインシュリンを発見して1923年にノーベル医学生理学賞を受賞した John J. R. Macleod はこの大学の医学部の教授であり、共同受賞者の Frederick G. Banting は卒業生です。私が留学していた時には、同じ化学科に化学反応機構の研究

で1986年のノーベル化学賞を受賞した John C. Polanyi 教授がいました。また、数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞の提唱者 John C. Fields はこの大学の出身です。佐賀大学からこの大学に留学した教員は意外に多く、私の他に、理工学部の田端先生（名誉教授）、高橋先生、シンクロトン光センターの郭先生、医学部の吉田先生、原先生などがおられます。

3. 理工学部時代

教養部は1996年の9月に廃止され、それに伴い、理工学部化学科へ異動になりました。さらに半年後の1997年4月に理工学部改組があり、理学系の化学科と工学系の工業化学科がひとつになって機能物質化学科ができました。しかし、ひとつになったはずの化学科と工業化学科でしたが、そのまま二つのコースに分かれて、研究室の場所は別々の建物にあり、予算、人事、授業などもそれぞれ独立に行うという状態でした。この二つの学科が実質的に融合したのは2001年9月に新棟の9号館へ移転してからです。

私にとってこの合併は非常にプラスになりました。理学系の私は工学的な視点がなく、研究対象に対する見方が狭くなっていました。しかし、工学系の先生方と日常的に接して話をすると、学ぶことが多くて知識が広がり、発想が豊かになりました。特に定年までの10年間は材料化学のテーマを中心に研究し、科研費も複合新領域のナノ・マイクロ科学分野で応募していましたので、工学系の先生方との共同研究や議論が大変役に立ちました。おかげで研究成果があがり、定年までの10年間は切れ目なく科研費を取ることができました。

4. 大学教育について

大学教育について私見を述べてみたいと思います。近年になって大学教育の充実が叫ばれ、さまざまな教育システムの導入が図られています。佐賀大学では「教育先導大学」という理念が標榜されるようになってから、その傾向が顕著になりました。理工学部では JABEE がそのような教育システムの典型的な例です。しかし、私にはその方向性が間違っているような気がしてなりません。

これまで導入されてきたシステムの場合、教育とは主に講義室で行われる授業が前提になっています。つまり、大学教育を中学や高校の教育の延長線上でとらえ、いかに分かりやすい講義をし、かつ学生に勉強させて学力をつけさせるかに主眼がおかれています。そのため、中学や高校の教育と大学教育の違いは何かと問われたら、単に難易度の違い（つまり、大学ではより難しいことを教えている）ということになってしまいます。これは間違っていると私は思います。大学教育が中学や高校の教育と決定的に違うのは、先端的な研究を教えることです。そ

れも、先端研究の成果を単に講義室で紹介するのではなく、学生に先端研究を行わせ、それを実感させ、方法論を身につけさせることです。つまり、四年生の卒業論文、大学院学生の修士論文・博士論文の指導のように、研究室で行われる教育こそが大学教育の真髄だと思います。そのためには、当然、自らも研究を行っている必要があります。大学教授のことを professor と言いますが、これは教授が研究によって得た学識を学生に対して profess することによって得たという話を聞いたことがあります。言葉の由来からしても、大学教員が単に teacher ではなく、professor であるためには研究が非常に大切です。

講義室で行われる教育が強調され、教員の時間と労力がそればかりに費やされるのであれば、大学教育が歪められることとなります。JABEE などの教育システムでは、「根拠資料」と称する資料作りのために教員は多大の時間を取られます。そのため、研究室で行う卒業論文などの指導が圧迫されています。評議員をしていた時に学部長の代理としてある学科の JABEE 審査に立ち会ったことがありますが、DC 棟の多目的セミナー室の端から端まで根拠資料が並べてありました。それも広げた資料が端から端までではなく、書棚の図書のように立てた

状態で端から端までです。膨大な量であり、とても審査員が審査期間内に目を通すことのできる量ではありませんでした。このように、講義室での教育を充実させるために多くの時間が費やされ、研究室での教育がおろそかになるのは本末転倒だと思います。

「大学では教育と研究は車の両輪である」とよく言われます。このような言い方をすれば、教育と研究がそれぞれ独立したものであるかのような印象を与えます。しかし、私の考えでは、教育と研究は一体化しており、不可分です。すなわち、研究を介さない教育は本当の大学教育ではないのです。佐賀大学では平成28年度から研究費が75%削減されることになり、研究の継続が危ぶまれるような事態になりました。教育と研究が独立したものであれば、研究を潰しても教育を保証することが可能です。しかし、私のような考え方に立てば、研究を潰すことは教育を潰すことにもなります。先生方は、これから研究の維持と発展のために資金面で非常に苦労されることと思います。しかし、決してくじけることなく、頑張っていたいただきたいと願っています。

最後に、佐賀大学と工学系研究科の益々の発展を祈念いたします。

理工学部で40年をすごして

機能物質化学科 野口英行

今、理工学部は創立50年を迎え、今年5月には記念行事も開催のはこびとなっている。私は、41年在職し、定年を迎えたがこの年月は理工学部の歴史とほぼ一致する。私は、修士過程を出てすぐ佐賀大学に着任したため、研究者あるいは教育者としての技能を何ら身に着けてはいず、気持ち的にも学生同然であった。その当時は、学生運動の嵐から大学が脱却して間もない頃であり、学生運動にかかわって留年する学生も多数いた。当然、年齢的には年上の学生もいたし、採用前の面接に来たときには工業化学科の建物内（2号館）で高校時代のクラスメートに会ったりもした。

着任後5年ぐらいは自分にとって先の見えない時代（誰を師と仰いで大学人として生きていくか定まらない）でもあった。先代教授である芳尾真幸名誉教授についていくことを決断してからは研究活動に迷いがなくなり、研究者としてゼロからの出発となった。まだ、この頃は小講座の職員学生全員で旅行に行ったりもしていたし、教授の中には、こんなのでいいのかと思うような人も居られた比較的のんびりとした時代ではあったが、工

業化学科には窯業工学講座が設置され、しばらくすると博士課程が設置されたりした理工学部の膨張期でもあった。この当時研究自体はクラウンエーテルの応用技術の開発をおこなっていたが、関連知識は残っているものの当時の印象は殆ど残っていない。唯一のインパクトは博士課程学生の時代から知っている人が、佐賀大学に赴任し、今後の佐賀大学を担ってくれるだろうと思っていた人が他大学に転出したことであろう。

分析化学の分野で学位を取り助教授になった時は、既に小講座の研究の中心は芳尾先生の友人であった小沢昭也先生のさそいで始めた電池材料に移っていた。この時はリチウムイオン電池の黎明期でもあり、研究すべきことは数多くあった。佐賀大学の研究で高い評価を得たのは、中村博吉先生が分担した添加剤に関する研究と私が分担したスピネル系材料であった。特に添加剤の研究は白精にある先端教育研究施設の建物の寄付を受けるものになったもので現在も同地で研究活動に従事されている芳尾名誉教授にエールを送りたい。私自身にとってはこの時代は苦痛の時であった。まかされたことの一つが学

生を管理し、世界レベルの研究を継続することであった。自分自身が反権力的で自由人であることを心の中に宿しているため、人をコントロールして仕事をさせることは大の苦手であった。また、ボスの持論であった小講座の教授の仕事は“部下である職員をおこることにある”ということにも同意できなかつた。というものの、この時代に研究室が最も活性化されていたことは否めない。多数の留学生や社会人ドクターを抱え、研究室は人と活気であふれていた。特に中国人留学生は、能力が高く且つアグレッシブであった。昨年1名の中国人学生が学位を取得したが、経済力が大きく成長した中国人からハングリー精神は失われていた。当時の留学生は5、6年前には大挙して中国に帰り、今では大学の教員となっている人は8名を数える。これらの人々が日本人研究者の間で佐大グループと呼ばれているのを聞くと感無量である。

教授になってからは小講座の長である芳尾先生から一部の研究の自由度と学科内の小講座の代表者との地位を与えられた。小講座の代表者としての地位は自分の学科内発言力を高める結果となり、中間管理職の経験と相まって学科長や専攻長をした時の学科運営をスムーズに進めることに役立った。

最後の10年はボスが退職したこと、大学が法人化されたことで大きな変革が不可避となった。大変申し訳なかったが、研究を続ける芳尾名誉教授を準教授であった中村博吉先生に押しつけることで私自身は完全な自由を獲得した。当時学科内で研究体制を大講座的にしようという機運があり、その流れによって研究室を大講座的に変更し、中村先生の御苦勞に応えることとした。最後の10年は originality のある研究テーマ探しからはじめ、最初の5年ぐらいは先の見えない状況にあったが、オリジナルな研究といえるものが二つほど見つかり、現在は研究とどのようにして決別するか手探り状態で、4月に

なってもなるべく人目につかない様に日々実験に励んでいる。自分は簡単に研究とは手をきれるとおもっていたがつくづくと研究者の性を感じる今日この頃である。今、最後の10年を振り返ると日本の電池研究者の中でそれなりの地位を築くことができたこと、田舎大学で二代目も十分ポテンシャルがあることを示せたことに幾分自己満足をおぼえている。

大学全体を見回すと法人化後10年を迎えるが形式主義（いざという時のための自己防衛用書類）ばかりがふえ、学生の面倒を見る時間が大幅に減少しているように思えてならない。教育の本質は人と人との付き合いであり、お互いに顔を合わせて表情を読み取りながら相手の気持ちに配慮して会話を進めることにあると信じている。今は、多くのことがコンピューターを介してなされ、単にマニュアルに沿った人員（学生）管理としか思えない。私自身は多様性の信者であり、こんなことでは個性を伸ばす教育はできないと思う。能力の低いミニ東大生を育てても本人のためにも社会のためにもならない。

話はわかるが最近学内ではコンプライアンスをいう言葉が耳に付く。大学ではより高い徳目であるモラルを重んじてほしい。昨今、世の中でパナマ文書が話題となり、退陣に追い込まれた政治家もでている。本年度佐賀大学法人が実施する研究費の削減は十分モラル違反の範疇に入るし、誰も責任をとるようすがないのも不可思議でもある。公務員体質そのもののように思える。企業の従業員ともいえる教職員の研究教育活動を阻害する経営を行うことは社長失格である。しっかりしたモラルを持って大学運営を行ってほしい。倫理観の欠けた強いリーダーシップは悪をなすだけである。

状況は悪いけど研究活動がおろそかにならないことを願っている。

Ⅲ 教育・研究成果および 社会活動の一覧

(1) 受賞

氏名	受賞名	期日
T. Minamoto	Track Organizng Award, Information Technology Next Generation: ITNG Conference 2015	2015年度
山口 暢彦	日本知能情報ファジィ学会論文賞	2015年度
梅木 辰也	溶液化学研究会奨励賞	2015年度
大竹 亜紗美	(学生受賞) 第6回有機分子・バイオエレクトロニクス未来を拓く若手研究者討論会ベストプレゼンテーションアワード受賞	2015年度
大竹 亜紗美	(学生受賞) The 10th Daegu University-Saga University Joint Symposium Poster (presentation) award	2015年度
黒木 惟	(学生受賞) The 10th Daegu University-Saga University Joint Symposium Poster (presentation) award	2015年度
白鳥 武	(学生受賞) The 10th Daegu University-Saga University Joint Symposium Poster (presentation) award	2015年度
黒木 惟	(学生受賞) The 6th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University Poster (presentation) award	2015年度
Y. Sato	International Tribology Conference, Tokyo 2015 Poster Award for Young Tribologists	2015年度
佐藤 善紀	トライボロジー学会 奨励賞	2015年度
只野 裕一	JACM Young Investigator Award	2015年度
篠宮 佳敬	電子情報通信学会九州支部長表彰「学生会講演奨励賞」	2015年度
木原 大輔	平成27年度電気学会電子・情報システム部門大会 Student session Outstanding Student Presentation Award	2015年度
古川 義晃 福島 義浩 伊野 孝宏 後田 寛紀	2015年度学生マイクロ波回路設計試作コンテスト 低損失部門 特別賞	2015年度
通信工学研究室	MWE2015大学展示コンテスト 奨励賞	2015年度
伊野 孝宏	映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 最優秀賞	2015年度
田中 裕喜	映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 優秀賞	2015年度
高橋 潤	2015年 IEEE 福岡支部発表奨励賞 (第5回)	2015年度
梅崎 紘孝	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ優秀学生修了表彰	2015年度
吉田 暁	電子情報通信学会九州支部学術奨励賞	2015年度
和久屋 寛	日本知能情報ファジィ学会貢献賞	2015年度
吉田 大貴	平成27年度電気学会九州支部長賞	2015年度
山口 優太	平成27年度電子情報通信学会九州支部長表彰 成績優秀賞	2015年度
吉田 大貴	産業応用工学全国大会2015 学生賞	2015年度
石橋 眞	平成27年度電気学会九州支部長賞	2015年度
石橋 眞	電気学会基礎・材料・共通部門 平成27年優秀論文発表賞	2015年度
有馬 隆文	アジア景観デザイン学会 景観研究賞	2015年度

氏 名	受 賞 名	期 日
古 賀 勇 気 大 串 浩一郎 押 川 英 夫	土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞	2015年度
新 井 康 平	文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門	2015年度
花 田 英 輔	ITヘルスケア学会 第9回年次学術大会 優秀講演賞	2015年度
Chai, J.-C., Horpibulsuk, S., Shen, S.-L. and Carter, J. P.	Honourable Mention Award (優秀論文賞)	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, JIA 日本建築家協会 優秀建築選 2015	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, 日本建築学会 九州建築選2015 佳作	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, 日本建築学会大会 建築デザイン発表会 優秀発表	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, 日本商環境デザイン協会 JCD アワード 2015 best100	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, アイカ施工例コンテスト2015 最優秀賞	2015年度
平 瀬 有 人	天神1丁目南地区 因幡町通り地下通路 内装設計業務委託プロポーザル, 最優 秀賞	2015年度
平 瀬 有 人	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー, SD レビュー2014 入選	2014年度
平 瀬 有 人	福智町立図書館・歴史資料館 設計業務者選定プロポーザル, 優秀賞	2014年度
赤 津 隆 犬 塚 隼 人 篠 田 豊 若 井 史 博	日本機械学会 機械材料・材料加工部門 部門一般表彰 (優秀講演論文部門)	2015年度
赤 津 隆	手島工業教育資金団・中村研究賞	2015年度
赤 津 隆	日本セラミックス協会・進歩賞	2015年度
K. Miyawaki Y. Harada N. Wakabayashi K. Imaizumi N. Koizumi K. Nakano Y. Yamaoka P. Dai Y. Itoh T. Takamatsu	日本組織細胞化学会論文賞	2015年度

氏 名	受 賞 名	期 日
Y. Jiang H. Tanaka T. Matsuyama Y. Yamaoka T. Takamatsu	日本組織細胞化学会論文賞	2015年度
大 和 武 彦	有機 π 電子系学会賞	2015年度
南 昂 希	(学生受賞) 電気学会 基礎・材料・共通部門 優秀論文発表賞	2015年度
山 口 勝 己	(学生受賞) 平成27年 電気学会 電子・情報・システム部門 技術委員会奨励賞	2015年度
中 村 駿 介 近 藤 美 咲 藤 瀬 清 貴	大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト優秀賞	2015年度
岡 崎 涼	2015 Pusan-Gyeongnam/Kyusyu-Seibu Joint Symposium Poster award	2015年度
小 川 祐 司	(学生受賞) 平成27年度 衝撃波シンポジウム Best Presentation Award	2015年度

(2) 佐賀大学が世話役となつて行った学会・研究会一覧表

所属学会・協会名	学会・研究会名	世話人氏名	開催日・期間
	3rd international symposium on host compounds for separation and functionality in Saga	大渡 啓介	2015年7月29日 ～30日
(公社)日本セラミックス協会	第54回セラミックス基礎科学討論会	渡 孝則 矢田 光徳	2016年1月7日 ～8日
(公社)化学工学会	第25回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会	川喜田英孝	2015年7月17日 ～18日
(公社)日本超音波医学会	第4回光超音波画像研究会	山岡 禎久	2016年3月25日
(一社)日本生体医工学会	2016年日本生体医工学会九州支部学術講演会	杉 剛直	2016年3月5日

(3) 外国人訪問者一覧

氏 名	国 名 及 び 大 学 名	訪 問 学 科 名	期 間
MinMin Yee 特任講師	ミャンマー, ダゴン大学	循環物質化学専攻	2015年4月1日 ~2016年2月29日
Laurence A. Nafie 名誉教授	アメリカ, Syracuse University	循環物質化学専攻	2015年9月5日
Rina K. Dukor 博士(社長)	アメリカ, BioTools, Inc.	循環物質化学専攻	2015年9月5日
Dharmesh Varade 博士	インド, Ahmedabad 大学	循環物質化学専攻	2015年11月24日
Pratap Bahadur 博士	インド, Veer Narmed South Gujarat 大学	循環物質化学専攻	2015年11月24日
Jan Weigand 教授	ドイツ, Dresden 工科大学	循環物質化学専攻	2015年11月26日
T. Punniyamurthy 教授	インド, Indian Institute of Technology Guwahati	循環物質化学専攻	2015年12月9日
Wouter D. Hoff 教授	アメリカ, Oklahoma 州立大学	循環物質化学専攻	2016年3月28日
Abdenacer Idrissi 教授	フランス, Lille 第一大学	循環物質化学専攻	2016年3月29日
Bogdan Marekha 博士	フランス, Lille 第一大学	循環物質化学専攻	2016年3月29日
Woo-Seok Cho	韓国, 韓国窯業技術院 (利川分室)	肥前セラミック研究 所	2016年1月6日

(4) 社会的活動

a) 各種審議会等委員

氏 名	各 種 審 議 会 等 委 員 名	期 間
遠 藤 隆	佐賀県 SSH 運営指導委員会	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新 井 康 平	佐賀県警察サイバー犯罪対策技術アドバイザー	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新 井 康 平	佐賀県住基ネット本人確認審議会 副会長	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新 井 康 平	佐賀市インキュベートルーム入居審査委員会 委員長	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新 井 康 平	日本宇宙少年団 武雄分団長	2015年4月1日 ～2016年3月31日
只 木 進 一	佐賀県情報公開・個人情報保護審査会 臨時委員（佐賀県情報公開・個人情報保護審査会部会長）	2015年4月1日 ～2015年6月30日
只 木 進 一	佐賀県職員ポータルシステム等に係る詳細設計、開発及び運用・保守業務委託の調達に係る総合評価一般競争入札審査委員会 委員	2015年3月15日 ～2015年7月30日
只 木 進 一	国立情報学研究所学認運営委員会 委員	2014年4月1日 ～継続中
只 木 進 一	佐賀県団体内総合宛名システム詳細設計・開発業務委託の調達に関する総合評価一般競争入札審査委員会 委員	2015年3月15日 ～2015年6月30日
只 木 進 一	九州経済連合会情報通信委員会 委員	2015年10月1日 ～2016年9月30日
只 木 進 一	佐賀県 IT 資産管理システム機器賃貸借及び保守に係る総合評価一般競争入札審査委員会 委員	2015年11月2日 ～2016年1月31日
只 木 進 一	佐賀県最高情報統括監採用選考に係る第1次選考委員会 委員	2016年1月15日 ～2016年1月22日
只 木 進 一	佐賀県情報セキュリティ強化にかかる機器賃貸借及び保守契約に関する総合評価一般競争入札審査委員会 委員	2016年3月1日 ～2016年3月31日
花 田 英 輔	電波環境協議会 医療機関における電波利用促進に向けた作業部会 座長代理	2015年9月1日 ～継続中
掛 下 哲 郎	ISO/IEC JTC1/SC7/WG20委員（日本代表委員）、CEN リエゾン委員、IEA リエゾン委員	2013年9月 ～継続中
掛 下 哲 郎	ISO/IEC 24773 Part 1 co-editor	2014年度～継続中
大 渡 啓 介	佐賀市エコプラザ運営委員会 委員長	2015年4月1日 ～継続中
兒 玉 浩 明	佐賀県立佐賀西高等学校学校評議員	2015年4月1日 ～2016年3月31日
兒 玉 浩 明	佐賀県立致遠館中学校・高等学校学校評議員	2015年4月1日 ～2016年3月31日
瀬戸口 俊 明	佐賀県公害審査会 公害審査委員	1997年11月1日 ～継続中
瀬戸口 俊 明	佐賀県環境審議会 委員長	2014年4月1日 ～2016年3月31日

氏名	各種審議会等委員名	期間
瀬戸口 俊 明	佐賀労働局 粉じん対策指導委員	2009年2月1日 ～継続中
瀬戸口 俊 明	海洋エネルギー変換器標準化委員会 兼 IEC/TC114国内委員会 委員	2007年10月1日 ～継続中
廣 友 雅 徳	佐賀県警察サイバー犯罪対策技術アドバイザー	2014年11月26日 ～継続中
豊 田 一 彦	佐賀工業高校 学校評議員	2015年4月1日 ～2016年3月31日
有 馬 隆 文	福岡市大規模小売店舗立地協議会 委員	
有 馬 隆 文	筑紫野市都市計画審議会 委員	
有 馬 隆 文	久山町都市計画審議会 委員	
有 馬 隆 文	久山町行政評価外部評価委員会 委員	
有 馬 隆 文	熊本県荒尾市景観審議会 会長	
有 馬 隆 文	福津市都市計画審議会 委員	
石 橋 孝 治	佐賀県建設技術支援機構評議会 評議員	
後 藤 隆太郎	小城市都市計画審議会 委員長	
後 藤 隆太郎	佐賀県美しい景観づくり審議会 委員	
後 藤 隆太郎	佐賀市建築審査会 委員	
後 藤 隆太郎	嬉野市景観審議会 委員	
後 藤 隆太郎	佐賀市景観賞選定委員会 委員長	
後 藤 隆太郎	武雄市新庁舎建設基本設計候補者選定委員会 委員	
後 藤 隆太郎	小城市中心市街地活性化協議会 委員	
後 藤 隆太郎	佐賀空港旅客ターミナルビル拡張調査基本設計候補者選定委員会 委員	
後 藤 隆太郎	佐賀県住生活基本計画策定委員会 委員・専門部会長	
後 藤 隆太郎	佐賀県福祉のまちづくり条例見直し検討委員会 委員	
後 藤 隆太郎	嬉野市伝統的建造物群保存地区保存審議会 委員	
後 藤 隆太郎	大川市都市計画マスタープラン策定委員会 副委員長	
後 藤 隆太郎	神埼高校設計候補者選定委員会委員長（佐賀県）	
後 藤 隆太郎	白石警察署設計候補者選定委員会委員長（佐賀県）	
後 藤 隆太郎	佐賀県立佐賀城公園及び森林公園の指定管理者候補者選定委員会 委員	
後 藤 隆太郎	佐賀市徐福長寿館指定管理者審査委員会 委員	
田 口 陽 子	佐賀市開発審査会 委員	
田 口 陽 子	佐賀県大規模小売店舗立地審議会 委員	
田 口 陽 子	佐賀市屋外広告物審議会 委員	
田 口 陽 子	佐賀駅周辺整備構想検討会議 委員	
三 島 伸 雄	大牟田市景観審議会 委員	
三 島 伸 雄	佐賀県建築士審査会 委員	
三 島 伸 雄	佐賀県総合評価技術委員会 委員	
三 島 伸 雄	鹿島市歴史的景観審議会 委員	

氏 名	各 種 審 議 会 等 委 員 名	期 間
三 島 伸 雄	嬉野温泉新駅周辺整備検討委員会 委員長	
三 島 伸 雄	佐賀の木・家・まちづくり賞 選考委員会 選考委員長	
三 島 伸 雄	嬉野市伝統的建造物群保存審議会 委員	
山 西 博 幸	鶴田ダム再開発環境影響検討会 委員	
山 西 博 幸	佐賀県開発審議会 委員	
山 西 博 幸	佐賀市環境審議会 委員	
上 野 直 広	光学的応力イメージング（応力発光法）標準化検討委員会 委員	
小 島 昌 一	佐賀県建築審査会 委員	
小 島 昌 一	佐賀県総合評価技術委員会 委員	
小 島 昌 一	神埼高校設計候補者選定委員会 委員	
後 藤 聡	佐賀県ユニバーサルデザイン化推進委員会推奨品選定委員会 委員	
平 瀬 有 人	基山町まち・ひと・しごと創生推進会議委員 副会長	2015年 8 月 ～2017年 3 月
平 瀬 有 人	基山町空き家等対策検討協議会	2016年 1 月 ～2017年 3 月
松 尾 繁	佐賀県大規模小売店舗立地審議会委員	2008年 4 月 1 日 ～継続中
松 尾 繁	佐賀産業保健推進連絡事務所 産業保健相談員（基幹相談員）	2013年 4 月 1 日 ～継続中
矢 田 光 徳	九州ファインセラミックス・テクノフォーラム 運営委員	
矢 田 光 徳	佐賀県窯業技術センター研究評価委員	
大 串 浩一郎	国土交通省九州地方整備局 嘉瀬川水系、六角川水系及び松浦川水系リバーカウンセラー	2015年度
大 串 浩一郎	国土交通省九州河道管理研究会	2015年度
大 串 浩一郎	佐賀県森林審議会	2015年度
大 串 浩一郎	国土交通省九州地方整備局有明・八代海域環境検討委員会	2015年度
大 串 浩一郎	国土交通省九州地方整備局河川維持管理検討委員会	2015年度
大 串 浩一郎	国土交通省武雄河川事務所ヨシ管理検討会	2015年度

b) 学協会委員

氏名	学協会委員	期間
半田賢司	日本数学会 地方区代議員	2016年3月1日 ～2017年2月28日
半田賢司	国立22大学法人数学系教室懇談会幹事校	2015年4月1日 ～2015年9月某日
新井康平	日本リモートセンシング学会 九州支部 顧問	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新井康平	国際学術連合・宇宙空間研究委員会・科学コミッションA 副議長	2015年4月1日 ～2016年3月31日
新井康平	国際学術連合・宇宙空間研究委員会・GEO 代表	2015年4月1日 ～2016年3月31日
岡崎泰久	電子情報通信学会 教育工学研究会 ET 専門委員	2013年5月 ～継続中
岡崎泰久	教育システム情報学会 九州支部 幹事	2015年5月 ～継続中
花田英輔	日本医療福祉設備協会 理事	2015年5月26日 ～継続中
花田英輔	日本医療情報学会 「利益相反委員会」委員, 幹事	2014年4月1日 ～2016年6月4日
花田英輔	電子情報通信学会 ヘルスケア・医療情報通信技術研究会 専門委員	2014年4月 ～継続中
花田英輔	日本生体医工学会 評議員	2015年5月某日 ～継続中
花田英輔	日本医療情報学会 九州沖縄支部 幹事	2014年11月1日 ～継続中
花田英輔	情報処理学会 会誌編集委員会 委員	2015年4月1日 ～継続中
掛下哲郎	JABEE 専門職大学院認証評価委員会 委員	2012年4月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 情報処理教育委員会 委員	2016年9月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 学会誌編集委員 (EWG)	2011年4月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 資格制度運営委員会 委員	2012年4月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 基準委員会 委員長	2016年9月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 ITプロフェッショナル委員会 委員	2012年4月 ～継続中
掛下哲郎	情報処理学会 アク্রেディテーション委員会 副委員長	2016年9月 ～継続中
掛下哲郎	情報システム学会 評議員	2012年4月 ～継続中

氏 名	学 協 会 委 員	期 間
大 石 祐 司	繊維学会 西部支部 常任幹事	2014年6月1日 ～継続中
大 石 祐 司	高分子学会 九州支部 幹事	2012年12月1日 ～継続中
花 本 猛 士	日本学術振興会 フッ素化学第155委員会 運営委員	2015年4月1日 ～継続中
花 本 猛 士	有機合成化学協会 代議員	2015年12月1日 ～2017年11月30日
大 渡 啓 介	化学工学会 九州支部 幹事	2015年4月1日 ～継続中
大 渡 啓 介	日本イオン交換学会 理事	2015年4月1日 ～継続中
大 渡 啓 介	日本溶媒抽出学会 編集委員	2015年4月1日 ～継続中
大 渡 啓 介	日本素材物性学会 常任委員	2015年4月1日 ～継続中
大 渡 啓 介	日本分析化学会 九州支部 幹事	2015年4月1日 ～継続中
長 田 聰 史	日本化学会 九州支部 代議員	2015年11月1日 ～2016年10月30日
長 田 聰 史	日本化学会 九州支部 幹事	2015年3月1日 ～2016年2月29日
兒 玉 浩 明	日本生化学会 九州支部 評議員	2015年4月1日 ～2016年3月31日
坂 口 幸 一	電子情報通信学会 有機エレクトロニクス委員会 専門委員	2011年6月1日 ～継続中
坂 口 幸 一	応用物理学会 有機分子&バイオエレクトロニクス分科会 常任幹事	2014年4月1日 ～2016年3月31日
森 貞 真太郎	日本吸着学会 評議員	2015年4月1日 ～継続中
森 貞 真太郎	日本吸着学会 編集委員	2015年4月1日 ～継続中
森 貞 真太郎	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員	2014年4月1日 ～継続中
鯉 川 雅 之	錯体化学会 第66回討論会 実行委員	2015年9月 ～2016年9月12日
鯉 川 雅 之	分子磁性国際会議 ICMM2016 国内組織委員	2012年4月1日 ～2016年9月8日
鯉 川 雅 之	九州錯体化学懇談会 運営委員	2011年4月1日 ～継続中
鯉 川 雅 之	日本分析化学会 XSAO 誌編集委員	2009年4月1日 ～継続中

氏 名	学 協 会 委 員	期 間
海 野 雅 司	日本分光学会 九州支部 幹事	2014年 4 月 1 日 ～継続中
高 椋 利 幸	九州溶液化学懇談会 事務局	2006年 4 月 ～継続中
高 椋 利 幸	European Molecular Liquids Group and Japanese Molecular Liquids Group, Secretary	2010年 1 月 1 日 ～継続中
高 椋 利 幸	日本分析化学会 「ぶんせき」誌編集委員	2014年 3 月 1 日 ～2016年 2 月29日
高 椋 利 幸	European Molecular Liquids Group and Japanese Molecular Liquids Group Annual Meeting 2015 in Rostock, Germany, Scientific Advisory Committee	2015年 9 月実施
高 椋 利 幸	日本分析化学会第64年会 実行委員会 委員	2015年 9 月実施
宮 良 明 男	日本機械学会 九州支部・商議員	2016年 3 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本機械学会 学会賞委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	国内分科会・主査, ASHRAE	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 冷媒漏洩対策委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 調査研究プロジェクト・幹事	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	化学工学会 論文校閲委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	ヒートポンプ・蓄熱センター 地下熱利用とヒートポンプシステム研究会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	ASHRAE 日本チャプター・幹事	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本伝熱学会 九州支部・支部長	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 理事・副会長	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	国立研究開発法人 新エネルギー・産業開発機構 (NEDO) 審査委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 ICR2015プログラム委員会・副委員長	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 熱交換器技術委員会・委員長	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 伝熱ワーキンググループ・主査	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 西日本地区事業推進委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日

氏 名	学 協 会 委 員	期 間
宮 良 明 男	Commission member, International Institute of Refrigeration	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 参与	2011年 7 月 1 日 ～継続中
宮 良 明 男	日本伝熱学会 理事	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 冷凍空調技士考査委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 論文編集委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	日本冷凍空調学会 学術講演会運営委員会・委員	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
宮 良 明 男	Applied Thermal Engineering, Associate Regional Editor, Elsevier	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
大 津 康 徳	電気学会 A 2 グループ 論文委員幹事	2015年 4 月 1 日 ～継続中
大 津 康 徳	プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部役員	2015年 5 月 1 日 ～継続中
佐々木 伸 一	電子情報通信学会電磁環境工学研究専門委員会 委員	2012年 4 月 1 日 ～継続中
佐々木 伸 一	電子情報通信学会九州支部学生会顧問 顧問	2003年 4 月某日 ～継続中
田 中 高 行	IEEE Microwave and Wireless Components Letters 論文査読委員	2011年 1 月 1 日 ～継続中
田 中 高 行	IEICE Electronics Express 編集委員	2014年11月28日 ～継続中
田 中 高 行	IEEE Transaction on Antennas and Propagation 論文査読委員	2015年 8 月某日 ～継続中
田 中 高 行	電子情報通信学会 マイクロ波研究会専門委員	2007年 5 月21日 ～継続中
田 中 高 行	電子情報通信学会 論文査読委員	2006年12月 1 日 ～継続中
田 中 高 行	映像情報メディア学会 放送技術研究会専門委員	2002年 6 月15日 ～継続中
田 中 高 行	2017 International Conference on Computational Electromagnetics (ICCEM 2017) 運営委員	2015年 9 月某日 ～2017年 3 月某日
豊 田 一 彦	ComManTel2015 TPC 委員	2015年 4 月12日 ～2015年12月30日
豊 田 一 彦	ATC2015 TPC 委員	2015年 7 月15日 ～2015年10月14日
豊 田 一 彦	ICCEM2017 展示委員長	2015年10月19日 ～継続中

氏 名	学 協 会 委 員	期 間
豊 田 一 彦	電子情報通信学会 短距離無線通信研究専門委員会 委員	2012年 6 月 1 日 ～継続中
豊 田 一 彦	電子情報通信学会 九州支部 運営委員	2014年 5 月 1 日 ～継続中
豊 田 一 彦	電子情報通信学会 和文論文誌特集号 編集委員長	2015年 9 月 9 日 ～2016年12月 1 日
VONGTHANASUNTHORN NARUMOL	低平地研究会 環境専門部会長	2015年 4 月 1 日 ～継続中
末 次 大 輔	(公社) 土木学会 木材工学委員会 運営小委員会 幹事	2015年 4 月 1 日 ～継続中
末 次 大 輔	(公社) 土木学会論文集 C 分冊編集小委員会 編集委員	2015年 6 月 1 日 ～継続中
末 次 大 輔	低平地研究会 基盤整備専門部会 部会長	2015年 4 月 1 日 ～継続中
末 次 大 輔	(公社) 地盤工学会学会賞審査員	2015年12月 1 日 ～2015年12月31日
末 次 大 輔	土木のイメージアップ連絡協議会 委員長	2015年 4 月 1 日 ～継続中
山 西 博 幸	社団法人 土木学会 九州防災災害情報アーカイブプロジェクト佐賀県部会部 会長	2015年 4 月 1 日 ～継続中
山 西 博 幸	社団法人 土木学会 本部環境賞選考委員会委員	2015年 4 月 1 日 ～継続中
山 西 博 幸	社団法人 日本水環境学会 九州沖縄支部・支部長	2015年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日
山 西 博 幸	社団法人 日本水環境学会 理事	2015年 6 月 1 日 ～継続中
山 西 博 幸	社団法人 土木学会 西部支部表彰候補者選考委員会委員	2015年 4 月 1 日 ～継続中
赤 津 隆	日本セラミックス協会 第28回秋季シンポジウム 特定セッションオーガナイ ザー	
赤 津 隆	日本セラミックス協会 第54回セラミックス基礎科学討論会 現地実行委員会 委員	
赤 津 隆	日本機械学会 第23回機械材料・材料加工技術講演会セッションオーガナイ ザー	
上 野 直 広	光学的応力イメージング(応力発光法) 標準化検討委員会 委員	
後 藤 聡	日本生体医工学会九州支部学術講演会 大会長	2016年 3 月 5 日
後 藤 聡	電気学会 診断・監視技術の共通基盤に関する協同研究委員会 委員	2014年12月 1 日 ～継続中
村 松 和 弘	電気学会回転機電磁界解析に関する高度先端技術調査専門委員会 委員	2013年 4 月 1 日 ～2016年 3 月31日

氏 名	学 協 会 委 員	期 間
村 松 和 弘	電気学会先進電磁界解析による設計高度化技術調査専門委員会 委員	2013年4月1日 ～2016年3月31日
村 松 和 弘	電気学会超電導回転機の現状と将来動向調査専門委員会 委員	2015年10月1日 ～継続中
渡 孝 則	(公社)日本セラミックス協会 九州支部長	2015年4月1日 ～継続中
渡 孝 則	無機マテリアル学会 理事	2015年4月1日 ～継続中
高 橋 英 嗣	酸素ダイナミクス研究会 会長	～継続中
高 橋 英 嗣	日本生理学会 評議員	～継続中
高 橋 英 嗣	日本血液代替物学会 評議員	～継続中
高 橋 英 嗣	日本生体医工学会 九州支部評議員	～継続中
高 橋 英 嗣	Editor, Journal of Physiological Sciences	～継続中
高 橋 英 嗣	Scientific Committee, ISOTT2015	～2015年7月
高 橋 英 嗣	Executive Committee, International Society on Oxygen Transport to Tissue	～継続中
大 串 浩一郎	日本リモートセンシング学会 九州支部 支部長	2015年度
大 串 浩一郎	在来知歴史学会 副会長・理事・評議員	2015年度
山 口 暢 彦	日本知能情報ファジィ学会九州支部 運営委員	2013年4月1日 ～継続中
廣 友 雅 徳	IEEE Information Theory Society Japan Chapter Treasurer	2015年1月1日 ～2016年12月31日
廣 友 雅 徳	電子情報通信学会 情報理論研究専門委員会 専門委員	2012年5月26日 ～継続中
廣 友 雅 徳	電子情報通信学会 英文論文誌 A 情報理論とその応用小特集号 編集委員	2015年5月 ～2016年12月
小 島 昌 一	(公社)空気調和・衛生工学会 九州支部 事業幹事	2016年4月1日 ～継続中
小 島 昌 一	(一社)日本建築学会 九州支部 環境工学委員会 委員	
小 島 昌 一	SAGA 健康・省エネ住宅推進協議会 副会長	2014年4月13日 ～継続中

(5) 留学・海外研修・国際学会参加一覧

氏 名	渡 航 お よ び 参 加 目 的	期 間
矢 田 光 徳	韓国のセラミックスの教育・研究の調査	2015年 9 月17日 ～2015年 9 月19日
村 松 和 弘	英国・カージク大学・磁性材料研究所を訪問し、磁性材料のモデリング法に関する調査研究	2015年 8 月10日 ～2015年 8 月17日
田 中 徹	日本学術振興会・二国間交流事業（共同研究）の相手先を訪問し、共同研究に関する議論と講演を行った。	2015年10月19日 ～2015年10月21日
小 島 昌 一	浙江大學城市学院の工程学院において、大学・研究科の教育・研究を紹介し、留学生プログラムの説明を行った。また、建築・都市デザイン系の紹介と、自分の研究内容の紹介を行った。	2016年 3 月18日
小 島 昌 一	タイのチェンマイ大学、タマサート大学、韓国の韓国交通大学と共同で、都市工学専攻の授業である「国際都市・環境特別演習（建築・都市デザイン）および「短期インターンシップ研修」として国際ワークショップを実施した。	2015年12月10日 ～2015年12月17日
村 松 和 弘	中国・武漢大学を訪問し、国際パートナーシップの実施及び客員教授として講義を行った	2015年 9 月 6 日 ～2015年 9 月20日
村 松 和 弘	武漢大学の客員教授として講義などを行うとともに、中国科学院、国家電網、河北工業大学、保定天威集团有限公司を訪問し、議論した。	2016年 3 月12日 ～2016年 3 月26日
矢 田 光 徳	チュラロンコン大学との共同研究の可能性に関する調査	2015年 8 月18日 ～2015年 8 月21日
大 渡 啓 介	STEPS 学生引率ならびに工学系研究科化学系教員・学生とインドネシアのガジャマダ大学の教員・学生の研究交流プログラムに参加した。	2015年 9 月14日 ～2015年 9 月18日
三 島 伸 雄	チェンマイで建築・都市デザイン国際ワークショップを行い、総勢40名で地域の調査・提案作業を行った。	2015年12月11日 ～2015年12月20日
大 串 浩 一 郎	IAHR International Biennial Congress にて論文発表。オランダ低平地における水管理調査。	2015年 6 月26日 ～2015年 7 月 6 日
森 田 繁 樹	研究発表	2015年 5 月 9 日 ～2015年 5 月16日
森 田 繁 樹	研究発表	2015年 9 月14日 ～2015年 9 月21日
豊 田 一 彦	ISAP 2015における情報交換と技術ディスカッション	2015年11月 7 日 ～2015年11月14日
豊 田 一 彦	招待講演と技術ディスカッション（IEEE iWAT2016）	2016年 2 月27日 ～2016年 3 月 4 日
村 松 和 弘	COMPUMAG 2015にて成果発表 1 件	2015年 6 月27日 ～2015年 7 月 4 日
竹 下 道 範	IRG Phenics にて研究成果発表	2015年11月22日 ～2015年11月28日
竹 下 道 範	WCSM-2016で研究成果発表を行った	2016年 3 月 3 日 ～2016年 3 月 7 日
宮 良 明 男	・ASHRAE Winter Conference に参加する。	2016年 1 月23日 ～2016年 1 月29日
西 尾 光 弘	The 17th International Conference on II-VI Compounds（II-VI 2015 Paris）に参加、発表	2015年 9 月13日 ～2015年 9 月18日

氏 名	渡 航 お よ び 参 加 目 的	期 間
中 山 功 一	SICE Annual Conference 2015にて研究発表	2015年 7月28日 ～2015年 7月30日
田 中 高 行	Vietnam-Japan MicroWave 2015 にて研究発表, ベトナム・日本の研究者と ディスカッション	2015年 8月10日 ～2015年 8月11日
田 中 高 行	European Microwave Conference 2015にて研究発表及び国内外の研究者と ディスカッション。	2015年 9月 7日 ～2015年 9月15日
大 津 康 徳	2件の研究成果を AEPSE2016の国際会議にて発表	2015年 9月20日 ～2015年 9月24日
大 津 康 徳	アメリカ合衆国 West Virginia 大学にて, 学術交流協議に関する打合せ及び共 同研究を実施した。	2015年12月 6日 ～2015年12月14日
宮 良 明 男	・ 19th Symposium on Thermophysical Properties に参加する。	2015年 6月21日 ～2015年 6月28日
皆 本 晃 弥	情報技術に関する国際会議 ITNG 2015において, 研究発表を行うとともに Wavelets and Validated Numerics の Track Chair を務めた。	2015年 4月13日 ～2015年 4月15日
田 中 徹	42nd IEEE Photovoltaic Specialists Conference にて研究発表。	2015年 6月13日 ～2015年 6月20日
宮 良 明 男	・ ICR2015に参加する。	2015年 8月16日 ～2015年 8月22日
和久屋 寛	韓国コンテンツ学会 (KoCon) が開催する春季年次大会へ参加し, 「ICT 防災 デザイン」に関する企画セッションにおいて研究発表を行う。	2015年 4月29日 ～2015年 5月 2日
和久屋 寛	韓国コンテンツ学会 (KoCon) が開催する国際会議へ参加し, 「ICT 防災デザ イン」に関する企画セッションにおいて研究発表を行う。	2015年12月10日 ～2015年12月14日
宮 良 明 男	・ ASME-ORC 2015に参加する。	2015年10月11日 ～2015年10月16日
堂 蘭 浩	International Conference on Frontiers in Education Computer Science にて座 長と研究発表を行った	2015年 7月27日 ～2015年 7月30日
村 松 和 弘	INTERMAG 2015にて成果発表 1件 + 座長	2015年 5月10日 ～2015年 5月16日
花 本 猛 士	9th French-Japanese Seminar on Fluorine (Nice, France) にて研究発表	2015年 8月30日 ～2015年 9月 1日
森 貞 真太郎	工学研究科の若手教員海外長期派遣支援を受け, オランダ Wageningen 大学 に客員研究員として長期滞在した。	2015年 3月 1日 ～2016年 2月29日
森 貞 真太郎	15th Conference of the International Association of Colloid and Interface Scien- tists (Maintz, Germany) にて 1件の研究発表	2015年 5月24日 ～2015年 5月29日
森 貞 真太郎	5th International Colloids Conference 2015 (Amsterdam, the Nether lands) に て 1件の研究発表	2015年 6月21日 ～2015年 6月24日
大 渡 啓 介	The 7th ISNSC (International Symposium on Nano & Supramolecular Chemis- try) に参加, 及び口頭発表のため	2015年 8月14日 ～2015年 8月16日
大 渡 啓 介	The 10th Daegu University-Saga University Joint Seminar に参加, 及び口頭発 表のため	2015年11月 9日 ～2015年11月12日
大 渡 啓 介	The 28th International Symposium on Chemical Engineering (ISChE 2014) に 参加, 及び学生引率のため	2015年12月 4日 ～2015年12月 6日

氏 名	渡 航 お よ び 参 加 目 的	期 間
大 渡 啓 介	Pacificchem 2015に参加, 及び招待講演発表のため	2015年12月17日 ～2015年12月20日
花 田 英 輔	HIC 2015にて発表	2015年 8 月 1 日 ～2015年 8 月 5 日
花 田 英 輔	Electromagnetic Compatibility Europe 2015(EMC2015) にて発表	2015年 8 月16日 ～2015年 8 月22日
花 田 英 輔	IEEE International Conference on Consumer Electronics-Berlin にて発表	2015年 9 月 6 日 ～2015年 9 月 9 日
花 田 英 輔	23rd International Conference on Electromagnetic Disturbances にて発表	2015年 9 月 9 日 ～2015年 9 月11日
掛 下 哲 郎	8th International Conference on Computer Supported Education (CSEU 2016) 参加および研究発表 (Rome, Italy)	2016年 4 月19日 ～2016年 4 月25日
掛 下 哲 郎	ISO/IEC JTC1/SC7 Plenary Meeting に参加し, ISO/IEC 24773 Part 1 Committee Draft (CD)の策定作業を行い CD 投票に付した。また, CEN および IEA と SC7のリエゾン関係の締結を提案し, 承認された。	2016年 5 月22日 ～2016年 5 月27日
掛 下 哲 郎	ISO/IEC JTC1/SC7 Interim Meeting に参加し, ISO/IEC 24773 Part 1の CD 投票の承認を確認し, CASCO に送付する Draft International Standard (DIS) の策定作業を行った。	2016年11月12日 ～2016年11月20日
新 井 康 平	ISITIA 2015にて Keynote Speech	2015年 4 月19日 ～2015年 4 月24日
新 井 康 平	SAI Computing Conference	2015年 7 月27日 ～2015年 8 月 1 日
新 井 康 平	ASTM にて発表	2015年 9 月14日 ～2015年 9 月17日
新 井 康 平	ASTER Field Campaign にて発表	2015年 9 月17日 ～2015年 9 月27日
新 井 康 平	ASTER Field Campaign にて発表	2015年12月22日 ～2016年 1 月 1 日
岡 崎 泰 久	韓国コンテンツ学会 (KoCon) が開催する KoCon Spring Conference へ参加し, Special Session (Disaster Prevention Design) において研究発表を行った。	2015年 4 月29日 ～2015年 5 月 2 日
岡 崎 泰 久	韓国コンテンツ学会 (KoCon) が開催する国際会議, ICC2015 (International Conference on Convergence Content2015) へ参加し, Special Session (Disaster Prevention Design) において研究発表を行った。	2015年12月10日 ～2015年12月14日
高 椋 利 幸	EMLG/JMLG Annual Meeting 2015, Rostock, Germany において成果発表と座長ならびに運営委員会出席	2015年 9 月 5 日 ～2015年 9 月11日
川喜田 英 孝	5th International Colloids Conference に参加発表	2015年 6 月21日 ～2015年 6 月24日
川喜田 英 孝	TKJ 2015, 台湾高雄で発表	2015年11月 5 日 ～2015年11月 7 日
高 橋 英 嗣	ISOTT 2015にて座長と研究発表 (2件) を行った	2015年 7 月12日 ～2015年 7 月16日
松 田 吉 隆	47th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications にて座長と研究発表 (1件) を行った	2015年12月 5 日 ～2015年12月 8 日

氏 名	渡 航 お よ び 参 加 目 的	期 間
堂 菌 浩	The 2015 International Conference on Computational Science and Computational Intelligence にて座長と研究発表（2件）を行った	
山 口 暢 彦	ISIS 2015にて発表	2015年11月4日 ～2015年11月7日
成 田 貴 行	15th International Congress of Biorheology, 8th International Conference on Clinical Hemorheology において成果発表, セッションオーガナイザーとして出席	2015年5月24日 ～2015年5月28日
坂 口 幸 一	The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Material and Related Nanotechnologies にて発表	2015年6月16日 ～2015年6月19日
坂 口 幸 一	Eighth International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics に committee として参加した	2015年6月22日 ～2015年6月24日
大 石 祐 司	5th International Colloids Conference 2015にて研究発表	2015年6月21日 ～2015年6月24日
橋 本 時 忠	12th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flow にて研究発表	2015年7月11日 ～2015年7月17日
寺 本 顕 武	2015 International Congress on Ultrasonics, Metz, France にて研究発表	2015年5月11日 ～2015年5月14日

(6) 博士論文テーマ一覧表 (2015年4月～2016年3月)

講 座	修了生	教 員	研 究 テ ー マ
システム創成科学専攻			
生産物質科学 (物理科学部門)	孟 冬冬 (DONGDONGMENG)	鄭 旭光	Raman Spectroscopic Study on the Ferroelectricity in Multiferroic Materials CuO and Co ₂ (OH/D)3X (マルチフェロ物質 CuO 及び Co ₂ (OH/D)3X の強誘電性に関するラマン分光研究)
社会循環システム学 (都市工学部門)	STEEVAGAILY RONDONUWU	柴 錦春	Behavior of vacuum consolidation with and without surcharge load (真空及び真空・載荷重併用による圧密挙動)
社会循環システム学 (都市工学部門)	BRUCEWILLIAM LANDER	山下 宗利	The influence of Blended Learning technology on contemporary society (現代社会におけるブレンデッドラーニングテクノロジーの活用効果)
先端融合工学 (先端融合工学部門)	MDMONARULISLAM	大和 武彦	Studies on synthesis, structures and reactions of novel meta-bridged macrocyclic aromatic compounds. (新規メタ架橋大環状芳香族化合物の合成・構造及び反応性に関する研究)
社会循環システム学 (都市工学部門)	APICHAT SUDDEEPONG	柴 錦春	Permanent deformation of clayey soils induced by static unloading-reloading cycles (静的除荷・再載荷サイクルによる粘性土の塑性変形)
社会循環システム学 (都市工学部門)	TOMMYJANSEN	大串浩一郎	THE EFFECT OF TIDAL CURRENTS AND STORM SURGE TO SEDIMENT TRANSPORT IN THE NORTH ARIAKE SEA, JAPAN (北部有明海における土砂輸送に対する潮流と高潮の影響)
先端融合工学 (先端融合工学部門)	趙 文文 (WENWENZHAO)	野口 英行	Sodium containing layered metal oxide: A promising sodium ion intercalation cathode material and precursor for the synthesis of lithium excess layered cathode material by reductive ion exchange method. (ナトリウム含有層状化合物：優れたナトリウムインターカレーション材料および還元イオン交換法によるリチウム過剰層状系材料合成の前駆体)
社会循環システム学 (循環物質化学部門)	KIMJEEYOUNG	大渡 啓介	Research on the Interfacial Properties, Extraction Equilibria, and Kinetics of Various Types Calix [4] arene Derivatives for Extractive Separation of Precious Metals (貴金属抽出分離のためのさまざまなカリックス [4] アレーン誘導体の界面特性, 抽出平衡, および抽出速度に関する研究)
社会循環システム学 (都市工学部門)	徐 方 (XUFANG)	柴 錦春	Method for predicting lateral displacement of PVD-improved deposits under embankment loading (PVD 改良地盤における盛土荷重による側方変形予測法)
生産物質科学 (機械システム工学)	三島 俊一	池上 康之	複数熱源に対する温度差発電技術の適応に関する研究 (下水処理場における未利用エネルギーの利用)
生産物質科学 (機械システム工学)	野中 撰護	辻村 健	非ホロノミック移動ロボット車の擬似連続指数安定化制御に関する研究
生産物質科学 (機械システム工学)	葉山 裕	萩原 世也	FBG 光ファイバセンシングによる回転軸モニタリングに関する研究
生産物質科学 (物理科学)	牧山 隆洋	河野 宏明	量子色力学的理論における相構造の研究
社会循環システム学 (都市工学)	森田 俊博	大串浩一郎	氾濫解析及び避難経路解析を用いた沿岸域における水災害危険度の評価
先端融合工学 (先端融合工学)	伊藤 修司	後藤 聡	精神医学診断のための画像認識を用いた非侵襲的生体計測に関する研究
電子情報システム学 (知能情報システム学)	大浦 龍二	皆本 晃弥	Dyadic Wavelet 変換と区間演算に基づく電子透かし法とその応用
先端融合工学 (先端融合工学)	ZANNATUL KOWSER	大和 武彦	Studies on synthesis and evaluations of novel ratiometric fluorescent chemosensors based on pyrenes (ピレンを基盤とする新規蛍光化学

生産物質科学 (機械システム工学)	SALSUWANDABIN SELAMAT	宮良 明男	センサーの合成と評価に関する研究 Numerical Modelling for Horizontal Ground Heat Exchangers Optimization (水平型地中熱交換器の最適化を目的とした数値モデルに関する研究)
電気情報システム学 (電気電子工学)	張 法碧	郭 其新	Growth and characterization of Ga ₂ O ₃ based wide bandgap semiconductor films (酸化ガリウム系ワイドギャップ半導体薄膜の作製と評価)
先端融合工学 (先端融合工学)	富安 弘嗣	大和 武彦	チアカリックス [4] アレーンを基盤としたヘテロダイトピックレセプターの合成と包接挙動に関する研究
先端融合工学 (先端融合工学)	新名 玄	村松 和弘	ベースモデルを分類可能な球面自己組織化マップの開発に関する研究
社会循環システム学 (都市工学)	BUIDINHTHANG	張 韓模	ベトナムの対内 FDI と地域経済に関する研究 -サムスンのベトナム進出を事例に-

(7) 修士論文テーマ一覧表 (2015年4月～2016年3月)

講座	修了生	指導教員	研究テーマ
数理学専攻			
	江崎 節	市川 尚志	離散対数問題に関する非対話型ゼロ知識証明
	大浦 三貴	半田 賢司	定期保険の責任準備金について
	川口 裕紀	梶木屋龍治	固有関数展開による偏微分方程式の解法
	北村 茂	市川 尚志	ヤコビの定理について
	香田 篤志	前田 定廣	リープマンの定理
	重松 宏紀	前田 定廣	シューアの定理
	高木 舜	前田 定廣	上半平面上の測地線の表示式
	瀧 誠彦	梶木屋龍治	波動方程式
	永野 美保	梶木屋龍治	Hilbert-Schmidt の定理とその応用
	三原慎一朗	前田 定廣	部分多様体論からみた球面定理
	宮田 龍一	市川 尚志	今井 - 松本暗号について
物理科学専攻			
	谷川 靖弘	米山 博志	QCD の熱力学
	中前 孝之	杉山 晃	フジクラ製 GEM を用いたガス増幅率の研究
	政時 憲太	米山 博志	ランダム行列模型を用いた有限温度・有限密度 QCD の相図
	大藤あゆみ	鄭 旭光	幾何学的フラストレーション磁性体 Clinoatacamite $\text{Cu}_2(\text{OH})_3\text{Cl}$ の磁気相転移の研究および薄膜の創製と誘電特性評価
	香月 佑己	船久保公一	宇宙マイクロ波背景放射のゆらぎによるインフレーションモデルの探求
	古賀 絵美	真木 一	時間分解光電子分光による $\text{K}_0.3\text{MoO}_3$ の電荷密度波状態の研究
	木場 文崇	米山 博志	有限密度 QCD の大正準分配関数と正準分配関数
	新島 賢人	遠藤 隆	連成振動における電磁誘導透過の類似現象
	高榎鼓太郎	船久保公一	Two-Higgs-Doublet Model における電弱相転移
	廣江 憲彦	遠藤 隆	離散時間量子ウォークにおけるエコー現象
	眞喜志康晃	杉山 晃	GEM 型ゲート装置の電子透過率の研究
	松村 悠太	米山 博志	有限密度格子 QCD の相構造
	松本 一駿	橋 基	高密度物質中のニュートリノ振動
	山口 悟志	鄭 旭光	中性子回折による水酸塩化物 $\text{Co}_2(\text{OH})_3\text{X}$ [X:Cl,Br] の新奇強誘電性の解明
	渡部 雄也	船久保公一	ダークマターの非相対論的有効場理論と直接検出における方向依存性の解析
知能情報システム学専攻			
	中村 秀丸	大谷 誠	P2P ネットワークにおける Web システムの構築
	藤瀬 昇平	奥村 浩	Blog, Tweet 情報による鳥獣被害現状把握と予測
	碓 圭介	大谷 誠	タブレット端末を用いた無線 LAN 電波強度測定システムの開発
	江口 貴	奥村 浩	ZigBee, GPS, WiFi ビーコン併用による位置推定を伴うトリアージ
	王 慧	松前 進	オフライン Web 技術を用いた論文添削システムの開発
	太田 康介	掛下 哲郎	プログラミング教育支援ツール pgtracer におけるログデータ分析機能の開発と学生の理解度分析
	大村 肇	皆本 晃弥	電子透かし法の評価における二重ツリー複素数離散ウェーブレット変換に基づいた画質劣化評価法
	加来 薫	中山 功一	対面授業で受講生が難解部分をリアルタイムに指摘する Web システムの研究開発
	神代 優	奥村 浩	マルチセンサーデータを用いた PM2.5 の動態解析
	坂下 真規	奥村 浩	Mie lidar データを正解とする雲パラメータ推定における比較研究

柴田 祐貴	掛下 哲郎	ソフトウェア設計支援ツール Perseus における模範解答との比較機能
渋谷 慶国	奥村 浩	携帯型端末用の特異色覚者支援アプリケーションの開発
下平 拓也	大谷 誠	OpenFlow を用いた利用者別 NAPT システムの開発
高木佐彌香	大谷 誠	被災者と Twitter の位置情報を利用した被害状況共有マップの開発
高山 直人	松前 進	対戦型ゲームにおける AI のパラメータチューニングに対する機械学習の利用
西島 甫	松前 進	オプティカルフローに AntTree を適用した異常動作の検出
平田勇一郎	松前 進	スマートフォンおよび NFC タグを用いた簡易的な出席管理システムの開発
村上 剛	中山 功一	バランス Wii ボードを用いたポインティングシステムの開発
森 聖菜	岡崎 泰久	歴史的な地方都市を対象としたハザードマップ作成支援システムの開発
山口 勝己	中山 功一	VR 技術を用いた野球のバッティングスキル習得支援アプリの開発
米山 明彦	皆本 晃弥	離散ウェブレット変換に基づく画質評価指標を用いたボケ画像判定法

循環物質化学専攻

日隈 康仁	高椋 利幸	添加溶媒の電子供与性による水溶液中における 1,3-Butanediol の分子内水素結合とコンフォメーション変化
石川 卓也	花本 猛士	ジフルオロメチル基 (CF ₂ H) を持つ新規ヘテロ環化合物の合成研究
大迫 拓輝	長田 聡史	Peptide deformylase に認識可能なトリアゾール含有ホルミルペプチドミミックの合成及び生理活性評価
片瀬友加里	兒玉 浩明	ホルミルペプチド受容体の機能解明のための二量化ペプチドの合成と生物活性
川島 季晋	長田 聡史	新規モノフルオロオレフィン反応剤の検討と HDAC 阻害剤合成への適用
川節あかね	兒玉 浩明	チャンネル機能配列の検索とアラメチシン様チャンネル活性を持つペプチドの創生
北島 誠人	鯉川 雅之	磁気的安定性を有する多孔性配位高分子のゲスト分子の脱着制御
久保 明美	大石 祐司	累積操作を利用した層状ペロブスカイト薄膜の新規調製法
黒田 裕介	大石 祐司	非対称性ベシクル内外膜の評価手法の確立
小松 和暉	中島 謙一	刺激応答性高分子ミセルを用いたアニリノナフタレンスルホン酸蛍光の ON-OFF スwitchング
佐熊 祐大	江良 正直	分子内エネルギー移動構造を有する液体シンチレータ用有機色素の開発
沢田 良太	北村 二雄	ポリチオフェン及びオリゴチオフェン誘導体の合成
首藤 俊介	大渡 啓介	Pt ナノキューブの液相還元合成における泡沫の影響
角 崇弘	大渡 啓介	高分子電解質修飾シリカ粒子を用いた粒子膜の自発的構造形成に対する高分子電荷の影響
高上穂奈美	成田 貴行	コラーゲンが有する巨視的形態形成機構の解明
田久保伸弥	長田 聡史	立体制約修飾を施したヒドロキサム酸系 HDAC 阻害剤の合成と生理活性評価
徳永 翔太	成田 貴行	酸化チタン／白金 JANUS 型粒子の調製と受光時における泳動挙動
原口翔次郎	海野 雅司	ラマン円偏光二色性スペクトルの励起波長依存性と光受容タンパク質への応用
本田 貴浩	成田 貴行	温度応答性を持つ自律振動カプセルの調製
牟田 健祐	北村 二雄	超原子価ヨウ素を用いる簡便なフッ素化反応の開発
村上 浩	大渡 啓介	2-エチルヘキシルホスホン酸型三脚状分子および単脚状分子による希土類金属の抽出分離の検討
森田 拓弥	中島 謙一	刺激応答性高分子ミセルを用いたローダミン色素-オキサジン系蛍光のカラー switchング

矢野 孝行	長田 聰史	フッ素を導入したS-リボシルホモシステインミミックの合成研究
山田 凜	北村 二雄	ポリプロモアレーン類のトリメチルシリル化反応とアセン合成への応用
山領 春輝	海野 雅司	過渡共鳴ラマン分光法を用いたプロテオロドプシン初期中間体の解析
吉木 道哉	花本 猛士	CF ₃ H-イミダゾリンの合成および新規モノフルオロメチル基導入剤の開発

機械システム工学専攻

池田 竣一	辻村 健	前腕筋電位に基づく手指動作解析を目的とした遺伝的プログラミングの最適設計
池田 亮太	森田 繁樹	AZ31マグネシウム合金圧延材における疲労特性の異方性
磯崎 駿一	木上 洋一	半開放型軸流ファンへの斜流ファン設計法の適用に関する研究
上野 聡士	木上 洋一	二酸化炭素高速気液二相ノズル流れの温度・速度に関する実験的研究
牛島 洋平	永田 修一	渦法による後ろ曲げダクトブイ型波力発電装置の挙動に関する研究
浦田 耕裕	辻村 健	人物特徴量を用いたパーティクルフィルタによる複数人物追跡
江野畑 大	塩見 憲正	半開放型軸流ファンの設計と実験による性能評価に関する研究
岡本 悠司	森田 繁樹	微細粒 AZ31マグネシウム合金押出板材の疲労特性
甲斐田 錬	服部 信祐	マルテンサイト系ステンレス鋼の腐食疲労強度に関する研究
河添 章寿	宮良 明男	プレート式熱交換器内における低GWP冷媒の流動および伝熱特性に関する研究
楠田 英佑	池上 康之	多段熱機関を用いた海洋温度差発電システムの高性能化に関する研究
厨 遼太郎	辻村 健	プロジェクション型アクティブARマーカの提案
榎原 宜孝	光武 雄一	水素吸蔵合金CaNi ₅ 充填層の水素流動抵抗および熱輸送特性
近藤 史章	長谷川裕之	複数の表面特性を有する多元系セラミック薄膜の開発
佐藤 祥二	木上 洋一	高比速度斜流ファンの性能と後置静翼列の内部流動に関する研究
白濱 智大	萩原 世也	弾塑性SPH法における応力-ひずみ関係の検討
高橋 大志	長谷川裕之	クロム系窒化物とフッ素を融合した低摩擦および耐酸化性薄膜の開発
田中 寛範	泉 清高	非ホロノミック制御の切換え関数による入力飽和対策
坪山 真也	光武 雄一	熱間圧延鋼板のROT冷却中の非定常冷却伝熱特性（下面ラミナー冷却特性について）
中磯 亨介	宮良 明男	微細流路内の沸騰凝縮熱伝達特性および圧力損失に関する実験的研究
中村 友哉	有馬 博史	プレート式熱交換器におけるFC-72の流動沸騰様相の可視化および沸騰熱伝達特性に関する研究
幡生 祐輔	瀬戸口俊明	波力発電用衝動タービンを利用した海水取得ポンプの開発
東 智文	光武 雄一	一流体フラットスプレーを用いた移動高温面上の非定常沸騰冷却特性
平野 将斗	萩原 世也	マグネシウム変形双晶の成長過程に関する分子動力学解析
福島 慎平	光武 雄一	高温面上への液滴衝突時の非定常遷移沸騰過程の観察（試験流体が水の場合について）
藤丸 雄也	石田 賢治	露点計測および露点推算の高精度化に関する研究
前田 泰祐	服部 信祐	鉄鋼材料の疲労強度に及ぼす切欠きの影響
百枝 亮一	森田 繁樹	AZ31マグネシウム合金圧延材の疲労き裂進展挙動に及ぼす引張りひずみの影響
森川 大	永田 修一	振り子型波力発電装置の発電性能評価に関する研究
山口 浩平	永田 修一	固定式波力発電装置の発電性能評価に関する研究
山崎 浩太	辻村 健	ハプティックインタフェースを用いた移動ロボットナビゲーション
山田 知弘	張 波	凝集型ソフトマター添加エンジンオイルの高圧物性と衝撃EHL油膜形成に関する研究
吉原 唯	萩原 世也	双晶の体積分率を考慮した結晶塑性モデルの構築

電気電子工学専攻

蘆塚 信博	佐々木伸一	多並列シングルエンド伝送路における遠端クロストーク低減技術
-------	-------	-------------------------------

		-容量付加法適用評価-	
阿比留昌克	西尾 光弘	減圧有機金属気相成長法による $Zn_{1-x}Mg_xSe_yTe_{1-y}/ZnTe$ 格子整合ヘテロ構造の作製と p 型ドーピング	
荒木 康博	西尾 光弘	減圧 MOVPE 法による ZnTe への P ドーピングと評価	
石橋 眞	古川 達也	リモートラボとバーチャルラボを統合した電気機器学習支援システムの開発	
梅崎 紘孝	田中 高行	注入同期構成を用いた多素子正帰還型 Push-Push 発振器アレーの研究	
加治木宏彰	古川 達也	リアルタイム OS を用いた遠隔計測システムの設計・実装に関する研究	
城戸 豊明	伊藤 秀昭	Kinfu を用いた二指ハンドによる物体把持システムにおける把持部分抽出	
久保 康平	古川 達也	柱上開閉器に内蔵することを想定した樹脂一体型電力センサの開発および実現可能性に関する研究	
堺 義隆	伊藤 秀昭	動作模倣システムにおける最適手法の改善と検討	
坂本 駿	田中 徹	$Cu_2ZnSnSe_4$ 薄膜太陽電池用材料の作製と評価	
姜 英希	郭 其新	PLD 法による Sn ドープ Ga_2O_3 薄膜の作製と評価	
瀬戸口和明	古川 達也	三相インバータおよび誘導電動機遠隔実験システムの開発	
田籠 正博	猪原 哲	パルスパワーを利用した砕氷に関する研究	
田中 大地	西尾 光弘	減圧 MOVPE 法により成長された ZnTe 系三元混晶半導体の評価	
田中 裕之	嘉数 誠	太陽電池の信頼性に関する研究	
寺沢 俊貴	田中 徹	中間バンド型太陽電池応用に向けた $ZnCdTeO$ 薄膜の MBE 成長	
中島 洋平	郭 其新	PLD 法による ZnTe 及び ZnO 薄膜成長に関する研究	
中山 恭綺	深井 澄夫	キャリブレーション回路を付加した 2 出力ニューロン MOS カレントミラーの研究	
原田 和也	嘉数 誠	ダイヤモンド及び酸化ガリウム電力素子の作製と評価に関する研究	
原田 純兵	豊田 一彦	スロット線路共振器を用いた 2 倍波ガン発振器の研究	
藤坂 遼	郭 其新	スパッタリング法による $MgO(100)$ 基板上の GaN 薄膜成長に関する研究	
榊谷 聡士	嘉数 誠	ワイドギャップ半導体ダイヤモンドと酸化ガリウムの X 線トポグラフィ観察と結晶成長	
松岡 祥平	和久屋 寛	フィードバック SOM における可視化機能の解析	
松岡 寛	原 重臣	吉野ヶ里メガソーラーにおける大規模計測データ可視化システムの開発	
森 英一郎	西尾 光弘	減圧有機金属気相法による高品質 ZnTe エピ膜の成長条件の探求	
森 智博	深井 澄夫	FG-MOSFET を用いた 4 値 ALU の検討	
山田 稔泰	豊田 一彦	周波数可変円偏波マイクロストリップアンテナの広帯域化設計法の研究	
吉田 暁	豊田 一彦	直線状にコイルを配置した磁界共振結合型選択的無線電力伝送の研究	

都市工学専攻

石丸 大祐	三島 伸雄	住民認識からみた歴史的町並みの避難経路及び避難所環境
廣瀬翔一郎	後藤隆太郎	三陸沿岸集落の被災実態と住居再建傾向に関する研究 - 部分流失集落の再建と立地地形に着目して -
井芹 祐哉	坂井 晃	震度レベルに基づいた震度指標の特性と震度分布に関する研究
井手 貴晴	柴 錦春	固化材による改良粘性土の透水係数および強度・微視構造との関係
内田 大資	三島 伸雄	深度建築 - 視深度による町家内部空間分析からの住宅設計提案 -
埋金 卓司	三島 伸雄	韓国安東市河回村における延焼予測からみた避難計画立案
岡崎 祐希	帯屋 洋之	超大変形解析における幾何剛性の構成と適合条件の厳密性に関する研究
尾上 大地	清田 勝	スーパーマーケットの出店が周辺住民の買物行動や競合する店舗の圏

			域に及ぼす影響
古賀 勇気	大串浩一郎		若津港導流堤が筑後川下流域の流れや物質輸送に及ぼす影響について
阪口 亮太	清田 勝		狭幅員 2 車線道路における自転車の危険回避行動発生予測モデルの構築と自転車通行空間整備への適用
佐々木 仁	末次 大輔		軟弱粘土地盤上の盛土建設における Raft&Pile 工法の安定化機構に関する研究
副田 和哉	平瀬 有人		全周パノラマ画像を用いた空間の記述法に関する研究 - 視覚情報の定量化による佐賀クリーク集落の空間特性 -
鷹取 太洋	三島 伸雄		地方都市における公的施設整備への PFI 事業導入可能性 - 事業地別の参加応募数と VFM (Value-For-Money) に着目して -
Tanaporn Tanachawengsakul	三島 伸雄		A study on multimodal access for fire emergency plan in a traditional canal community: Khlong Bang Luang
塚本 一裕	末次 大輔		酸処理剤が混入した海中における濁土の沈降堆積特性に関する研究
寺尾 寿信	大串浩一郎		六角川流域における排水機場の効果的運用に関する研究
時 祐太	平瀬 有人		八幡市民会館の設計過程にみる村野藤吾の設計手法に関する研究
富岡 正治	井嶋 克志		面外曲げ抵抗を考慮した直交異方性膜の大変形解析と実験
西村 道生	中大窪千晶		数値解析を用いた低層住宅地における空地の位置と被覆の違いが熱環境に及ぼす影響の把握
西山 亮介	荒木 宏之		氾濫解析モデルによるバンコクの内水排除に関する研究
廣橋 碧	三島 伸雄		地目・等級からみた開墾会社永沢社による入植地整備 - 『明治三十二年 土地臺帳 印旛郡八街村八街』を資料として -
福嶋 有希	平瀬 有人		吉村順三の構想背景に関する研究 - 軽井沢の山荘 (吉村邸) を対象として -
船戸 翔平	柴 錦春		微生物による炭酸カルシウム析出促進効果及び粘性土の強度増加に関する研究
松川 和弘	小島 昌一		大規模病院の空調・給湯・熱源システムにおける省 CO2・省エネルギー技術の実証研究
三原永一朗	石橋 孝治		築30年を経て撤去された立体駐車場走行路 RC 床板の詳細劣化調査と考察
宮野 弘詩	平瀬 有人		育まれる建築 - 再帰的環境文脈を持つ建築群の設計 -
村石勇次郎	中大窪千晶		日射熱を利用したパッシブデザインのための三次元熱伝導解析を用いた床表面温度計算方法の開発
村岡 宙彦	荒木 宏之		新しいナノサイズ層状複水酸化物のリン吸脱着および再生性能の評価
村上 尊由	平瀬 有人		建築設計競技提案パネルのレイアウトと建築表現に関する研究 - 日本建築学会設計競技の全国入選作品を対象として -
李 玉嬌	小島 昌一		大学附属病院におけるコージェネレーション導入によるエネルギー消費量削減に関する研究

先端融合工学専攻

井川 征士	堂 蘭 浩		Leap Motion を用いた生体認証アプリケーションの開発
池尻 悠亮	大和 武彦		生体機能分子認識能を持つカリックスアレーン類の合成および評価
浦吉 大輝	後藤 聡		海洋温度差発電ポテンシャルモデルの構築と実験プラントの温熱源温度制御
瓜生 英紀	後藤 聡		水槽水位制御実験装置における水位制御の異常検出法の開発
江口 勇人	村松 和弘		エネルギーを考慮した磁気特性のモデリング
大山 祥平	村松 和弘		かご形誘導機の横流損評価のための二次元・三次元併用渦電流解析法
小川 祐司	橋本 時忠		集束膨張波による模擬軟組織への効果に関する研究
笠原 隆弘	橋本 時忠		粘弾性物質に対するレーザー誘起気泡の特性
笠原 暢	上野 直広		Web カメラを用いたマルチコプターの自律飛行制御に関する研究
河添 博仁	大和 武彦		二つの異なる認識部位をもつ 1, 3-alternate チアカリックス [4] アレーンの合成と錯形成能評価

北島 千裕	杉 剛直	ICU 記録脳波における異常脳波自動検出システムの開発
北原 光	渡 孝則	Sr ₃ SiO ₅ :Eu ³⁺ 赤色蛍光体の製造と特性
木村友佳理	矢田 光徳	リン酸チタンを前駆体とした酸化チタンナノ・マイクロ階層構造粒子の合成と特性評価
切江 秀幸	野口 英行	チタンスピネル系負極材料の合成法の確立およびその電気化学特性評価
栗田 知明	イスラムカーン	EMG 信号処理による加齢に伴う下肢筋肉の動的な分析
栗山 恵輔	大和 武彦	ピレンを基盤とする拡張 π 共役系巨大分子の合成と光学特性
黒田 純司	上野 直広	外乱抑制可能な Adaptive Dynamic Surface Control に関する研究
齊藤 優介	杉 剛直	睡眠ポリグラフ記録における特徴パラメータと睡眠段階との関連性解析
末次 輝章	後藤 聡	性能評価機能を有する海洋温度差発電プラントの遠隔監視・遠隔操作 Web アプリケーション開発
武田 成弘	村松 和弘	異方性鉄芯を用いた三相リアクトルの T 接合部改良による損失低減
田中 章宣	野口 英行	NaNiMn ベース P2 型層状酸化物系正極材料の電気化学特性
中頭 達也	堂蘭 浩	HTML5 を用いたオンライン生体認証システムの開発
富重 勇人	野口 英行	還元イオン交換法を用いて合成した Ti 含有 Li 過剰層状系正極材料の電気化学特性
長尾 知樹	イスラムカーン	AE 信号処理によるパーライト鑄鉄のき裂進展挙動検出に関する研究
永淵 修一	イスラムカーン	鋼に起こる破断について AE 手法による源位置計算
檜枝 健介	橋本 時忠	粉体注射器を用いた薬剤輸送に関する数値的実験的研究
平松 真悟	渡 孝則	酸化物複合体による青色アップコンバージョン蛍光体の合成
廣畑 拓也	上野 直広	応力発光体を用いた CFRP 複合容器の異常診断
前田 優	野口 英行	Cr,Ni 含有マンガン系スピネル化合物からのリチウム過剰層状系固体相の合成とその電気化学特性
松尾 龍基	竹下 道範	フォトクロミックスイッチをもつカリックスアレーンの開発
村岡 賢一	竹下 道範	大環状チオフェノファン-1-エン類によるアルカリ金属イオンの光能動輸送
森山 雄介	村松 和弘	磁化ベクトルを用いた電気機器の漏洩磁界のモデリング
柳井 宏伸	後藤 聡	テンプレート自動生成によるビジュアルサーボを用いた自走式ロボットアームの遠隔操作システム
矢野 撰	後藤 聡	生体信号を用いた移動ロボット遠隔操作システムと意思伝達装置の開発
矢原 大裕	高橋 英嗣	MDA-MB-231細胞の酸素走化性
山田 寛治	上野 直広	MATLAB/Simulink を用いた制御実験装置の設計に関する研究
山田 高弘	野口 英行	多金属置換型 TiO ₂ (B) の合成とその電気化学特性
山本 大将	松尾 繁	空気銃を用いたジェットインジェクターに関する研究
吉住 宗平	木本 晃	皮膚湿潤度測定のための回転式静電センサの開発
吉田 拓磨	高橋 英嗣	Gap Cover Glass (GCG) を用いた培養細胞下の酸素濃度勾配形成とその定量
田中 将徳	上野 直広	A Study on Adaptive Model Predictive Control for Second Order Systems

(8) 工学系研究科研究成果一覧表

数理科学専攻

著書

日比野雄嗣	ステップアップ微分積分学	培風館, 2015年5月
-------	--------------	--------------

原著論文

Takashi Ichikawa	Algebraic and rigid geometry on the Schottky problem	J. reine angew Math., Vol.705, pp.23-33, 2015. 5
R. Kajikiya	Multiple positive solutions of the Emden-Fowler equation in hollow thin symmetric domains.	Calculus of Variations and Partial Differential Equations, Vol.52, No.3-4, pp.681-704, 2015
Ryuji Kajikiya	A priori estimate for the first eigenvalue of the p-Laplacian.	Differential and Integral Equations, Vol.28, No. No.9-10, pp.1011-1028, 2015
Ryuji Kajikiya	Partially symmetric solutions of the generalized He-non equation in symmetric domains.	Topological Methods in Nonlinear Analysis, Vol.46, No.1, pp.191-221, 2015
G. Akagi and R. Kajikiya	Stability of stationary solutions for semilinear heat equations with concave nonlinearity.	Communications in Contemporary Mathematics, Vol.17, No.6, pp.1550001-1-1550001-29, 2015
Takuzo Okada	Nonrational del Pezzo fibrations admitting an action of the Klein simple group	European Journal of Mathematics, Vol.2, No.1, pp.319-332, 2016. 3
中川泰宏	On the examples of Nill and Paffenholz	International Journal of Mathematics, Vol.26, No.4, pp.673-687, 2015
Takato Uehara	Rational surface automorphisms with positive entropy	Ann. Inst. Fourier, Vol.66, 377-432, 2016. 2

総説・資料・解説・研究報告・総合雑誌の論文

中村健太郎	$GL_2(Q_p)$ の p 進局所 Langlands 対応	RIMS Kokyuroku Bessatsu: Algebraic Number Theory and Related Topics 2013, 2015
-------	----------------------------------	--

招待講演・特別講演 (学会シンポジウム等での講演を含む)

半田賢司	Ewens 分布を不変にする 2 つの Markov 連鎖	研究集会「官庁統計データの公開における諸問題の研究と他分野への応用」, 統計数理研究所, 2015年12月
Ryuji Kajikiya	Infinitely many solutions for sublinear elliptic equations.	2015 International Workshop on Nonlinear PDE and Applications, 2015. 6
中村健太郎	Local epsilon isomorphisms for rank two p-adic representations of $Gal(\overline{Q}_p/Q_p)$ and a functional equation of Kato's Euler system	5th East Asia Number Theory Conference, チュンチョン, 韓国, 2015年8月

中村健太郎	Local epsilon isomorphisms for rank two p-adic representations of $\text{Gal}(\overline{\mathbb{Q}}_p/\mathbb{Q}_p)$ and a functional equation of Kato's Euler system	Geometrie arithmetique, theorie des representations et applications, ルミニエー, フランス, 2015年6月
-------	---	---

一般講演 (学会講演を含む)

Ryuji Kajikiya	Symmetric mountain pass lemma and sublinear elliptic equations.	Equadiff 2015, 2015. 7
Ryuji Kajikiya	Symmetric solutions of semilinear elliptic equations.	3rd Chile-Japan Workshop on Non-linear PDEs, 2015. 12
Ryuji Kajikiya	A priori estimate for the first eigenvalue of the p -Laplacian.	日本数学会, 2015年9月
梶木屋龍治	半線形楕円型方程式の群不変解の存在	拡散に付随する数理科学セミナー, 2015年7月
Ryuji Kajikiya	A priori estimate for the first eigenvalue of the p -Laplacian.	名古屋大学における微分方程式セミナー, 2015年9月
中村健太郎	p 進保型形式と志村多様体	2015年度整数論サマースクール「志村多様体とその応用」, 青森, 2015年8月
中川泰宏	非対称 Einstein-Kähler トーリック Fano 多様体について	RIMS 研究集会 幾何学・組合せ論に現れる環と代数構造 京都大学数理解析研究所, 2015年6月
中川泰宏	ある種のトーリック束の上の Einstein-Kähler 計量について	淡路島幾何学研究集会2016, 2016年1月
中川泰宏	ある種のトーリック束の上の Einstein-Kähler 計量の存在問題について	2016名城幾何学研究集会「幾何構造の深化」, 2016年3月

物理科学専攻

原著論文

Toru Tsujibayashi, Junpei Azuma, Isamu Yamamoto, Kazutoshi Takahashi, and Masao Kamada	Photo-induced valence change of the sulfur atom in an L-cysteine thin film grown on a silver metal substrate in a saliva-emulated aqueous solution	Appl. Phys. Lett., Vol.106, pp.173702, 2015. 5
--	--	--